喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)

県営畑地帯総合土地改良事業(小野津地区)に
伴う埋蔵文化財確認調査報告書

オン畑遺跡
巻畑B遺跡
巻畑C遺跡
池ノ底散布地

1993年3月

鹿児島県大島郡喜界町教育委員会

序　　文

わが喜界島は，新世代第三紀鮮新世の島尻層を基盤に琉球石灰岩，志戸桶層隆起珊瑚礁，砂丘の地層から形成された島です。

本町における埋蔵文化財の最初の発掘調査は昭和32年九学会によって行われ，荒木農道遺跡，巌島神社貝塚などいくつかが発見され，縄文時代後期の土器片（宇宿式土器），石斧，貝器，骨器等が，また喜界高校校庭からは縄文時代前期の轟式土器に相似した土器片が出土しています。

その後も昭和61年度に先山遺跡発掘調査と熊本大学によるハンタ遺跡の発掘調査，昭和63年度に島中Ｂ遺跡の発掘調査が行われています。

今回は，県営畑地帯総合土地改良事業（小野津地区）実施に伴い「オン畑，巻畑Ｂ，巻畑Ｃ，池ノ底遺跡発掘調査事業」として，県教育委員会の指導援助を得て発掘調査を実施することができました。

本書はその報告書であります。この調査結果が土地改良事業実施にあたって遺跡保存のために適切に活用されるよう念願いたします。

真夏の炎天下に大変なご尽力をくださった県立埋蔵文化財センターの調査員の先生方をはじめ，指導者，作業協力者及び協力いただいた土地協力者の方々に厚く御礼申しあげます。

本町においては，このような土地改良事業実施に伴う遺跡調査は今後も実施が予想されますので，今後ともご協力くださるようお願いいたします。

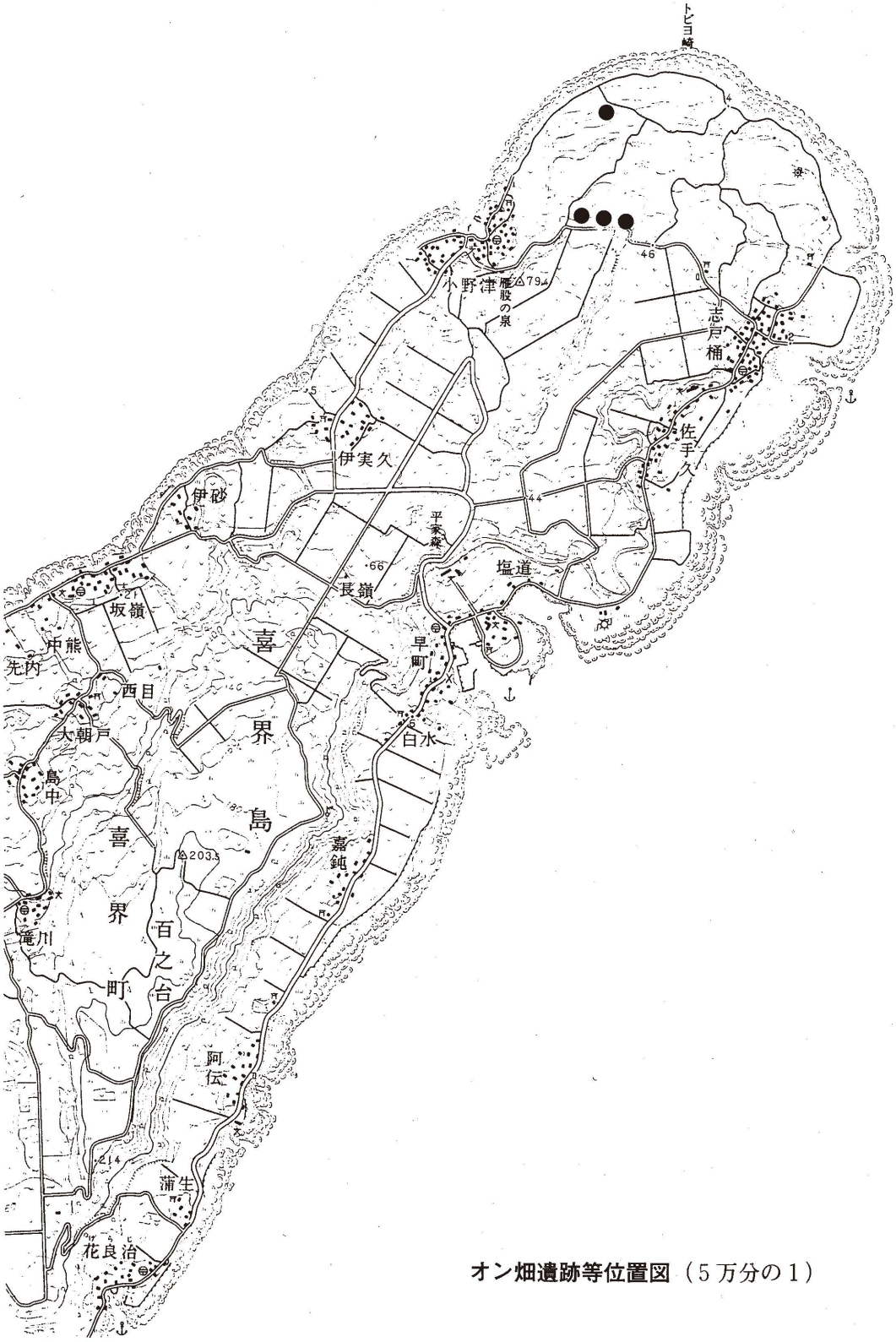
平成５年３月

喜界町教育委員会
教育長　折　田　国　雄

報告書抄録

フリナガ 書名	オンバタ イセキ ・マキハタB イセキ ・マキハタC イセキ ・イケノソコ サンプチ オン畑遺跡・巻畑Ｂ遺跡・巻畑Ｃ遺跡・池ノ底散布地
副書名	県営畑地帯総合土地改良事業(小野津地区)に伴う埋蔵文化財確認調査報告書
巻次	
シリーズ名	喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	5
編著者名	池畑　耕一・堂込　秀人
編集機関	喜界町教育委員会
所在地	鹿児島県大島郡喜界町湾61番地
発行年月日	平成５年３月２０日
フリガナ 所収遺跡名	オンバタ イセキ ・マキハタB イセキ ・マキハタC イセキ オン畑遺跡・巻畑Ｂ遺跡・巻畑Ｃ遺跡
フリガナ 所在地	カゴシマケン オオシマグンキカイチョウ オノツ 鹿児島県大島郡喜界町小野津
調査期間	19920720～19920731　　平成４年７月20日～７月31日
調査面積	630㎡
調査原因	県営畑地帯総合土地改良事業（小野津地区）

	遺跡名	主な遺構	主な時代	主な遺物	出土量	特記
	1.　オン畑遺跡	掘立柱建物２ 炉跡２ 溝状遺構２	中世	類須恵器 鉄滓		
	2.　巻畑Ｂ遺跡	掘立柱建物２	古代～中世	土師器 須恵器 石　鍋 フイゴの羽口 鉄　滓	64点 ７点 ２点 ３点 ２点	
	3.　巻畑Ｃ遺跡		古代～中世	土師器 類須恵器 石　鍋	６点 ３点 １点	



オン畑遺跡等位置図（５万分の１）

例　　言

1　この報告書は，県営畑地帯総合土地改良事業（小野津地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　調査は喜界町教育委員会が主体となり，発掘調査は鹿児島県教育庁鹿児島県立埋蔵文化財センターが依頼を受けて担当した。

3　本書で用いたレベル数値はすべて近くのベンチマークから移動した高さを基準とした海抜絶対高である。

4　遺物番号はすべて通し番号であり，本文及び挿図・図版の番号は一致する。

5　遺構・遺物の実測・トレース及び写真撮影は，池畑・堂込が行った。

6　本書の執筆分担は次の通りである。

第Ⅰ章，第Ⅱ章，第Ⅲ章，第Ⅳ章第１・３～５節，
第Ⅴ章……池畑
第Ⅳ章第２節……堂込

7　遺物は喜界町教育委員会で保管し，展示・活用する計画である。

目　　次

序　文 (1)
報告書抄録 (2)
例　言 (4)
目　次 (5)
　挿図目次 (5)
　図版目次 (6)
第Ⅰ章　調査の経過及び調査の組織 …… 7
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 7
　第２節　調査の組織 …… 7
　第３節　調査の経過 …… 7
第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境 …… 10
第Ⅲ章　層　　序 …… 13
第Ⅳ章　発掘調査の概要 …… 14
　第１節　概　　要 …… 14
　第２節　オン畑遺跡 …… 16
　第３節　巻畑Ｂ遺跡 …… 26
　第４節　巻畑Ｃ遺跡 …… 34
　第５節　池ノ底散布地 …… 38
第Ⅴ章　まとめにかえて …… 40

挿　図　目　次

第１図　オン畑遺跡等の位置 …… 10
第２図　周辺の遺跡分布図 …… 11
第３図　土層柱状図 …… 13
第４図　整備前の遺跡周辺図 …… 14
第５図　整備後の遺跡周辺図 …… 15
第６図　オン畑遺跡トレンチ配置図 …… 16
第７図　オン畑遺跡の遺跡範囲と施工後 …… 16
第８図　オン畑遺跡１トレンチ拡張区の遺構配置図 …… 17
第９図　オン畑遺跡１号炉跡 …… 19
第10図　オン畑遺跡２号炉跡 …… 20

第11図　類須恵器出土状況 …… 20
第12図　オン畑遺跡出土の遺物(1) …… 21
第13図　オン畑遺跡出土の遺物(2) …… 22
第14図　オン畑遺跡出土の遺物(3) …… 23
第15図　オン畑遺跡６トレンチの柱穴 …… 25
第16図　巻畑Ｂ遺跡トレンチ配置図（施工前） …… 26
第17図　巻畑Ｂ遺跡トレンチ配置図（施工後） …… 27
第18図　巻畑Ｂ遺跡１トレンチの柱穴 …… 28
第19図　巻畑Ｂ遺跡１トレンチの掘立柱建物 …… 29
第20図　巻畑Ｂ遺跡５トレンチの柱穴 …… 30
第21図　巻畑Ｂ遺跡５トレンチの掘立柱建物 …… 31
第22図　巻畑Ｂ遺跡出土の遺物(1) …… 32
第23図　巻畑Ｂ遺跡４トレンチ断面図 …… 33
第24図　巻畑Ｂ遺跡出土の遺物(2) …… 33
第25図　巻畑Ｃ遺跡トレンチ配置図（施工前） …… 34
第26図　巻畑Ｃ遺跡トレンチ配置図（施工後） …… 35
第27図　巻畑Ｃ遺跡断面図 …… 35
第28図　巻畑Ｃ遺跡２トレンチの柱穴 …… 36
第29図　巻畑Ｃ遺跡５トレンチの柱穴 …… 37
第30図　池ノ底散布地土手断面図 …… 38
第31図　池ノ底散布地トレンチ配置図（施工前） …… 38
第32図　池ノ底散布地トレンチ配置図（施工後） …… 39
第33図　池ノ底散布地断面図 …… 39

図　版　目　次

図版１　オン畑遺跡１トレンチ遺構検出状況 …… 41
図版２　オン畑遺跡１号炉跡検出状況・オン畑遺跡１号炉跡 …… 42
図版３　オン畑遺跡２号炉跡検出状況・オン畑遺跡類須恵器出土状況 …… 43
図版４　オン畑遺跡６トレンチ柱穴検出状況・巻畑Ｂ遺跡１トレンチ柱穴検出状況 …… 44
図版５　巻畑Ｂ遺跡５トレンチ柱穴検出状況（北から）・（西から） …… 45
図版６　池ノ底散布地遠景・発掘調査参加者・発掘風景 …… 46
図版７　遺物（１，２） …… 47
図版８　遺物（25，23，29，30） …… 48
図版９　遺物（４，６，７，９，11，12，18，19，24，31） …… 49

第Ⅰ章　調査の経過及び調査の組織

第1節　調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（農地整備課・喜界土地改良出張所）は，大島郡喜界町小野津地区の県営畑地帯総合土地改良事業を計画し，実施計画地域内における埋蔵文化財の有無について，鹿児島県教育委員会（文化課）に照会した。

これをうけて，平成2年4月，文化課（担当：大野・東）で当該地区の分布調査を実施したところ平成3・4年度工事実施予定地区内に6か所の散布地が確認された。

この結果に基づき，農地整備課（喜界土地改良出張所），文化課，喜界町教育委員会の間で事業の推進と埋蔵文化財の保護に係る協議が行われ，まず，平成3年6月に喜界町教育委員会が調査主体となって，巻畑A・池ノ底B両散布地の範囲・性格を確認するための発掘調査を県文化課に依頼して実施した。確認調査の結果，両散布地とも遺構・遺物が発見されなかったため工事は計画通り実施された。さらに平成4年度事業区には残り4か所の散布地が含まれていたため喜界町教育委員会が調査主体となり，調査を鹿児島県立埋蔵文化財センターに依頼して実施することとなった。

調査の対象地はほとんどがサトウキビ畑であることから，調査区の設定・補償・作業員の手配等の打合せ，発掘用具の点検などのため，調査担当者のひとりである堂込が7月1・2日の両日喜界町へ出向いた。

第2節　調査の組織

事業主体	喜界土地改良出張所		
調査主体	喜界町教育委員会		
調査責任者	〃	教育長	折田国雄
調査事務担当者	〃	社会教育課長	太利博美
	〃	〃　課長補佐	児玉右三
	〃	〃　派遣社会教育主事	鈴木俊二
	〃	〃　社会教育指導員	西島常吉
発掘調査担当者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財主事	池畑耕一
	〃	文化財研究員	堂込秀人

なお，調査企画等に関し，鹿児島県教育委員会文化課，鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・助言を得た。

第3節　調査の経過

発掘調査は，平成4年7月20日から平成4年7月31日まで実施し，その後，県立埋蔵文化財センターにおいて整理・報告書作成作業を行った。

日　誌　抄

7月20日（月）　発掘用具を教育委員会から現地へ運搬。テント設営。作業員に作業日程，調査上の留意点等を説明してから調査開始。巻畑Ｂ・Ｃ遺跡，オン畑遺跡に２ｍ×５ｍのグリッドを設定し，重機で表土はぎ。

巻畑Ｂ遺跡の１～３トレンチ掘り下げ。土が堅い。１トレンチで柱穴を確認。土師器が出土。

7月21日（火）　災暑のため本日から作業時間を変更する。昼食休みを２時間とし，終了時間を１時間延長して18時とする。寒冷舎を上に張り，直射日光をさえぎる。

池ノ底散布地の表土を重機ではぐ。

巻畑Ｂ遺跡の１・３～５トレンチの掘り下げ。１トレンチは拡張する。焼土を確認。３トレンチに黒色土の落ち込みがあったため掘り下げたが，柱穴状にならず自然のものと見なす。４トレンチは珊瑚礁が各所に露出，清掃のあと写真撮影して仕上げる。５トレンチは拡張して掘り下げる。ピット・炭などがある。

町教育委員会教育長見学。

7月22日（水）　災暑と粘土質土壌のため土がカチカチとなり，ひびがはいるので，調査する場所に水をまく。

巻畑Ｂ遺跡の１・５トレンチ掘り下げ。５トレンチでピットを発見。

巻畑Ｃ遺跡の２～５トレンチ掘り下げ。２・３・５トレンチの写真撮影。

オン畑遺跡の２トレンチ掘り下げ。

大島教育事務所喜界駐在指導主事　西園正敏氏見学。

7月23日（木）　巻畑Ｂ遺跡の５トレンチはさらに拡張し，柱穴をさがす。

巻畑Ｃ遺跡の２トレンチも拡張し，柱穴をさがす。

オン畑遺跡の１・２・６トレンチ掘り下げ。１トレンチは焼土などが検出されたため重機で大きく広げる。６トレンチでは多くの柱穴が発見される。

早町小学校教頭　本田硯孝氏見学。

7月24日（金）　巻畑Ｂ遺跡の５トレンチ柱穴の検出。

巻畑Ｃ遺跡の２トレンチ柱穴の検出。清掃のあと写真撮影。５トレンチの掘り下げ。

オン畑遺跡の６トレンチ掘り下げ，遺構検出。

近くの三角点から海抜絶対高を移動する。

7月27日（月）　巻畑Ｂ遺跡の５トレンチは写真撮影のあと柱穴掘りあげ。
巻畑Ｃ遺跡の５トレンチは掘り下げ。柱穴検出のあと掘りあげ。
オン畑遺跡の６トレンチ清掃。写真撮影のあと柱穴掘りあげ。

7月28日（火）　巻畑Ｂ遺跡の５トレンチ柱穴掘りあげ。全面清掃のあと写真撮影，平面実測。
巻畑Ｂ遺跡の１トレンチ遺構検出。
巻畑Ｃ遺跡の５トレンチ全面清掃のあと写真撮影。２・５トレンチの平面実測。
オン畑遺跡の６トレンチ柱穴掘りあげ。１トレンチの遺構検出。
トレンチの位置を千分の１の図にいれる。

7月29日（水）　池ノ底遺跡の１～３トレンチ掘り下げ。清掃のあと写真撮影，断面実測。
土手のトレンチ掘り下げ。清掃のあと写真撮影，断面実測。
巻畑Ｂ遺跡の１トレンチ柱穴掘りあげ。清掃のあと写真撮影，平面実測。
オン畑遺跡の１トレンチ掘り下げ。６トレンチ平面実測。
トレンチの位置を千分の１の図にいれる。

7月30日（木）　巻畑Ｂ遺跡の４トレンチ断面実測。
巻畑Ｃ遺跡の１・３トレンチの断面実測。１トレンチの全面清掃のあと写真撮影。
オン畑遺跡の１トレンチ遺構検出。１トレンチの炉跡を清掃のあと写真撮影，掘りあげ。

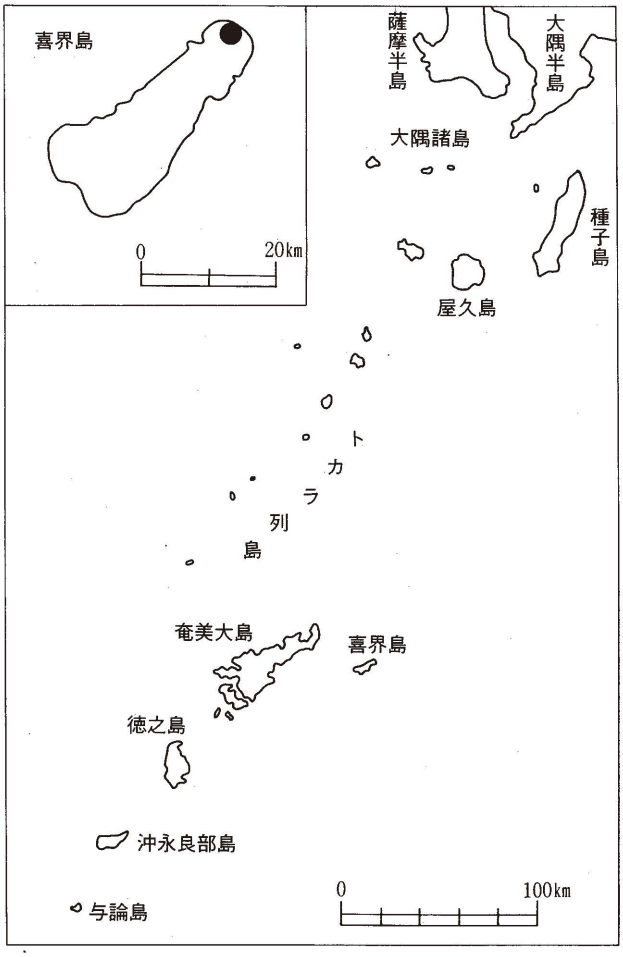
7月31日（金）　オン畑遺跡の１トレンチを清掃のあと全景の写真撮影。
道具を片付けて，教育委員会へ運搬。テント撤去。

第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境

遺跡の所在する喜界町は，鹿児島市からおよそ380km南に位置する奄美群島のなかの１つ，喜界島にあり，１島で１町をなしている。奄美大島からはおよそ42km東方に位置し，北東から南西にかけて細長い島である。長さはおよそ14km，北東部から南西部にかけてしだいに幅を広げ，最も幅の広い所で約８kmある。島の周囲は約48km，面積は約56km²ある。

喜界島は概して平坦な隆起珊瑚礁の島で，最も高い所は島の中央東側にある百之台で標高は224ｍある。この百之台を中心に北西側へは緩やかに傾斜し，60ｍ～10ｍの広い段丘地形が見られる。一方，これに対して南東部は急崖となり，海岸線にそってわずかな平坦地が見られるだけである。こうした地形のために，河川の発達は乏しく，用水はそのほとんどを地下水や湧水に依存している。

気候は亜熱帯性気候で，年平均気温23℃と年間を通じて温暖である。年間の降水量は2,100mmに達し，全島がガジュマル等の常緑樹におおわれている。



第１図　オン畑遺跡等の位置

本島の基盤をなしているのは，新生代第三期鮮新世の島尻層で，琉球石灰岩，志戸桶層，隆起珊瑚礁，砂丘が上層を形成している。マージと呼ばれる暗赤色土壌が島の大部分を覆っている。

起状の少ない平坦な地形のため耕地面積が広い。農業が島の主要な産業で，温暖な亜熱帯性気候を利用して栽培されるサトウキビが島の主要農産物である。

オン畑遺跡，巻畑Ｂ遺跡，巻畑Ｃ遺跡，池ノ底散布地は，鹿児島県大島郡喜界町小野津に所在する。小野津地区は島の北東端にあり，海岸から緩やかに標高60ｍ位まで上がっていく。集落は西側海岸地区の低地に密集しており，その他はほとんどサトウキビ畑となっている。集落の東南側，台地から急に低地に落ちる地点には『雁股の泉』と呼ばれる湧水

第2図　周辺の遺跡分布図

遺　跡　地　名　表

図番	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	池ノ底	小野津池ノ底	台地			本報告
2	巻畑B	〃 巻畑	〃	古代～中世	土師器・須恵器・類須恵器・石鍋・フイゴの羽口	〃
3	巻畑C	〃 〃	〃	〃	土師器・類須恵器・石鍋	〃
4	オン畑	〃 オン畑	〃	古代～近世	類須恵器・鉄滓	〃
5	八幡神社境内	〃	砂丘	平安時代	須恵器・祠の中にある	
6	川嶺グスク・坂元・当地	志戸桶川嶺・坂元・当地	丘陵	古代～近世	類須恵器・滑石製石鍋青磁・染付・南蛮焼・琉球甕・琉球赤絵・古今里・玉類	
7	志戸桶	志戸桶七城	台地	古代～中世	類須恵器完形5・滑石製石鍋	
8	振川	〃 振川	砂丘	縄文	土器・貝刃・貝殻・獣骨	
9	志戸桶貝塚	〃				
10	七城	〃 増ケダ189	台地	古代～中世	類須恵器	
11						
12						
13						
14	早町中学校	塩道1190	砂丘		石斧・叩石	

地があり豊富な水量をほこっているが，この地は源為朝にまつわる伝説も残っている。

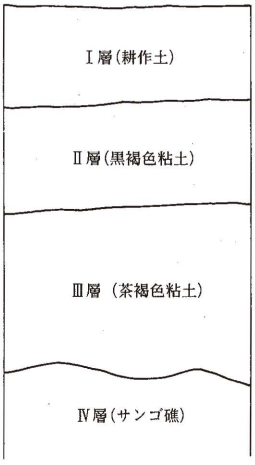
小野津集落周辺の低地からは古くから磨製石斧等が採集されており，小野津地区の中にある八幡神社境内の祠には平安時代の須恵器短頸壷が置いてある。また台地の上からも各所で磨製石斧が採集されているが，ともに所属，時期，詳細な出土地点等が不明である。

小野津地区の東側にある志戸桶には縄文時代の貝塚である振川遺跡や志戸桶貝塚，類須恵器・滑石製石鍋・青磁など古代～中世の遺物が多く出土している川嶺グスク，坂元遺跡，当地遺跡などの遺跡がある。

調査対象となった4地点は南側から北側へ向かって緩やかに下降する傾斜地に位置している。最も高いオン畑遺跡で標高54m，海岸線に近い池ノ底散布地で標高12mある。ほとんどがサトウキビ畑となっており，畑境の多くは珊瑚などによって段差のある石垣が積まれている。

第Ⅲ章　層　　序

喜界島の他の地点と同じく，今回調査した遺跡周辺においても基盤上の覆土は薄く，各所に基盤の珊瑚礁が露出している。部分的に削平等がみられ，残存していない層もあるが，基本的には次のような層序をしている。



第3図　土層柱状図

Ⅰ層　表土（耕作土）。20cm～30cmあり，褐色あるいは淡茶褐色をした粘質土である。場所によっては多くの白色をした珊瑚粒が含まれている。

Ⅱ層　20cm～60cmある黒褐色の粘土で，硬質である。赤色・淡茶褐色の小石粒を多く含み，上部には土師器や須恵器などが包含されている。

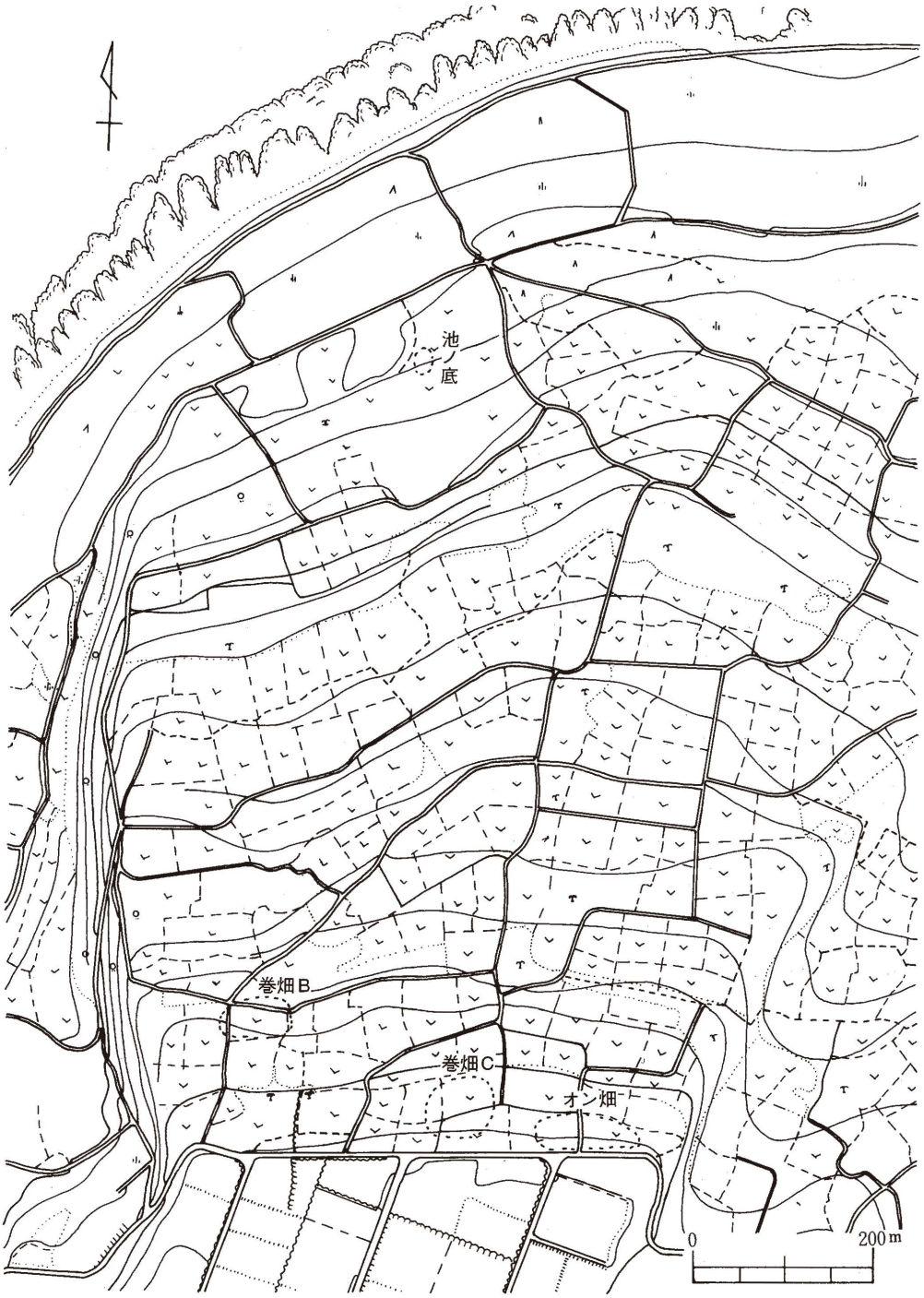
Ⅲ層　茶褐色（所により明るかったり暗かったりする）を主体とする粘土で，硬質である。下面は基盤の珊瑚礁に接しているためでこぼこが激しい。自然のものと考えられるドーナツ状の落ち込みが各地にみられる。

Ⅳ層　基盤の珊瑚礁で，でこぼこが激しい。

この他に池ノ底散布地では基盤の珊瑚礁の上に細砂が堆積している。第1トレンチと第2トレンチのあいだの土手では次のようになっている。Ⅱ層の下に40～60cmの厚さの暗茶褐色細砂があるが，微砂に近い密な砂である。その下には90～100cmの厚さの白っぽい乳灰色細砂があるが，これも微砂に近い密な砂である。さらにその下は淡灰褐色細砂であるが，ここでは部分的に基盤の珊瑚礁が露出している。

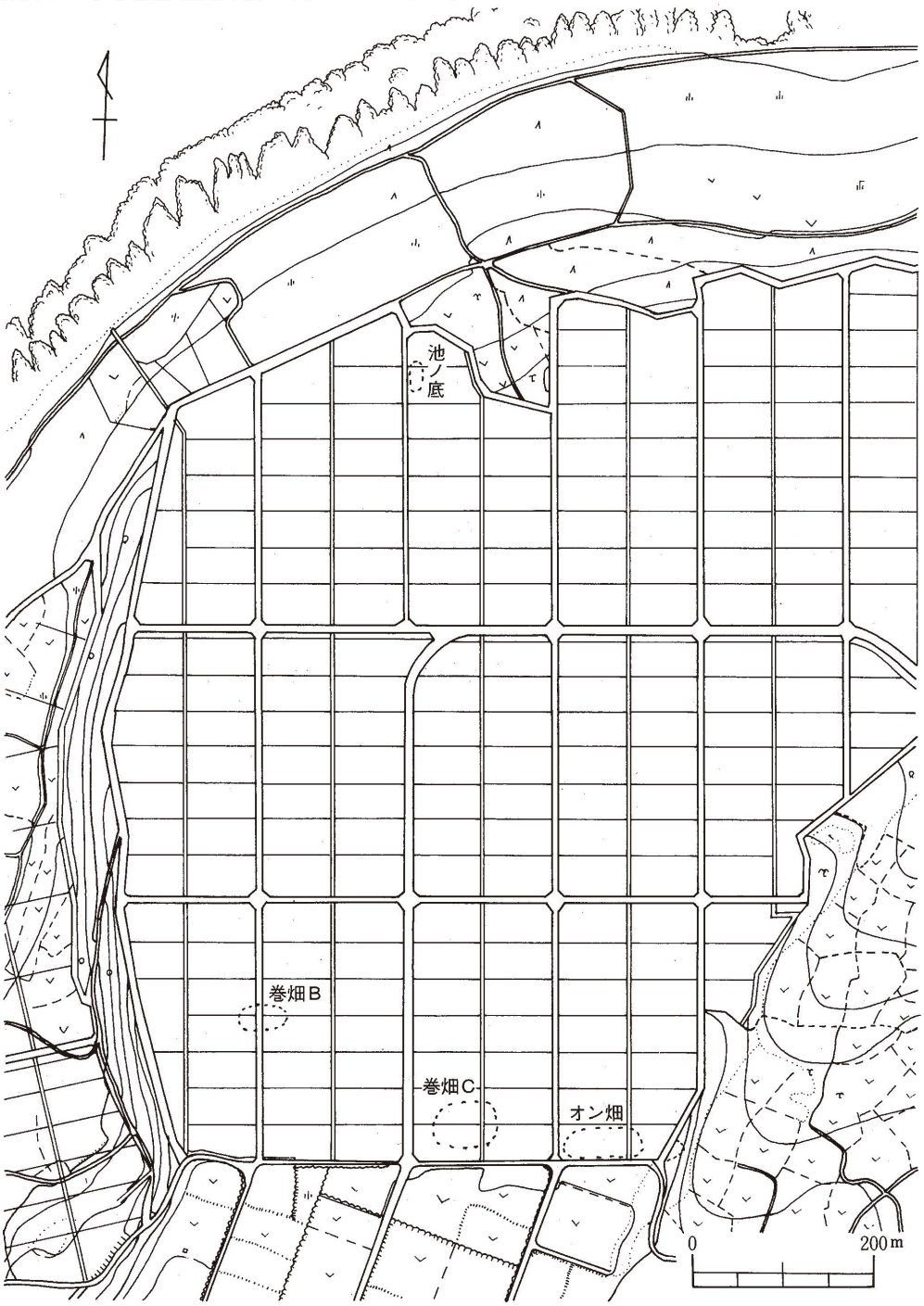
第Ⅳ章　発掘調査の概要

第１節　概　　要



第４図　整備前の遺跡周辺図

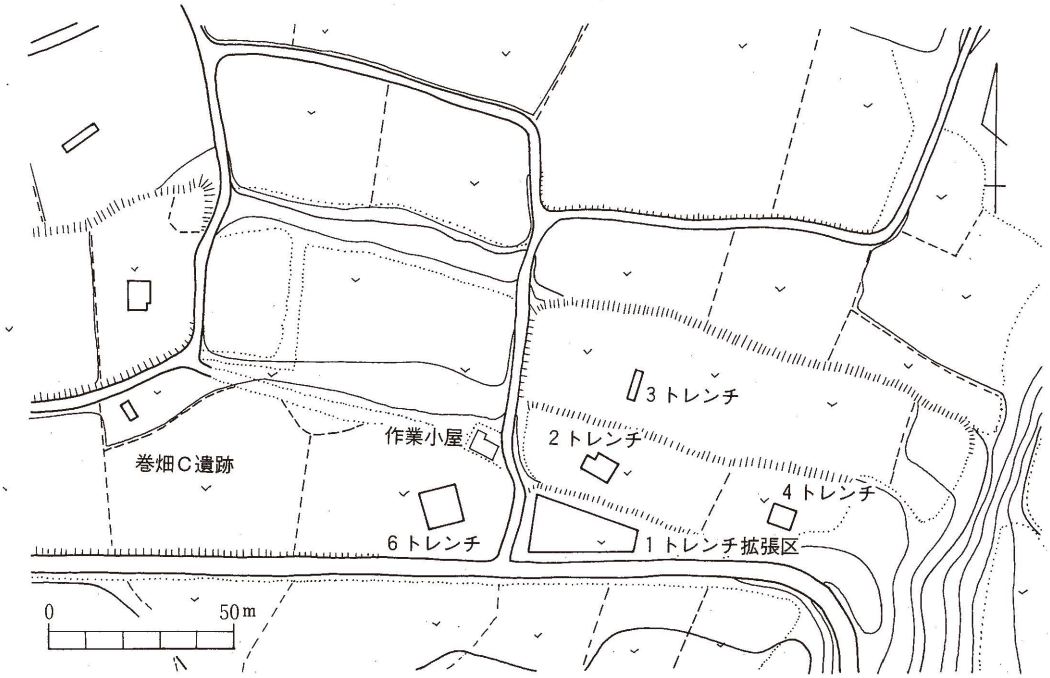
対象地がサトウキビ畑であるため表土はぎは重機によって行った。地形等を考えて各遺跡とも２ｍ×５ｍのトレンチを基本として設定し，遺構・遺物散布の広がりがみられた地点については拡張した。調査実施面積は約630㎡である。



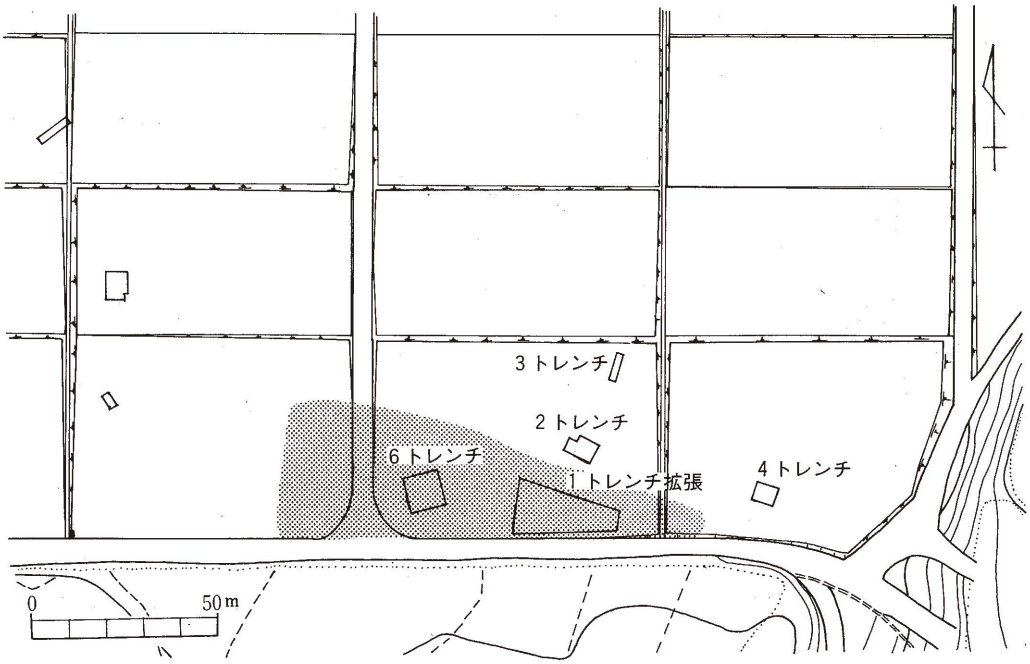
第５図　整備後の遺跡周辺図

第２節　オン畑遺跡

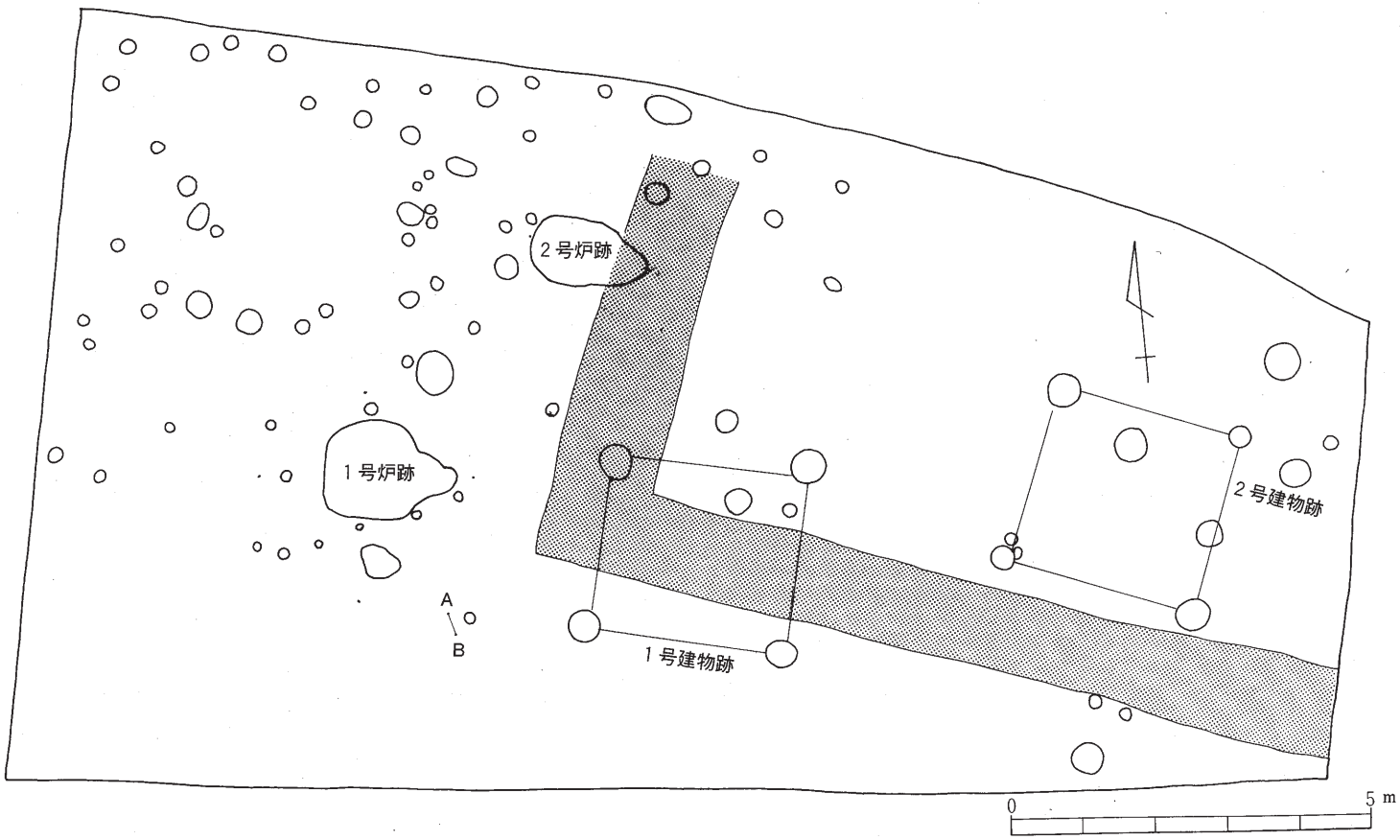
小野津字オン畑に所在する。遺跡は今回調査した４遺跡の中で最も高所に当たり，北方向に緩やかに傾斜する標高51ｍ～54ｍの台地に位置している（第４図）。調査対象地は県道沿いの



第６図　オン畑遺跡トレンチ配置図



第７図　オン畑遺跡の遺跡範囲と施工後



第8図　オン畑遺跡1トレンチ拡張区の遺構配置図

北側で表採域調査対象面積約1,800㎡に対して，周辺を含めて調査対象面積5,000㎡に6本のトレンチを設定した（第6図）。トレンチは2×5ｍを基本として，重機を用いて表土を除去後，遺構の可能性があればその都度拡張して行った。調査面積は約360㎡である。

1.　1トレンチ

表土剝ぎの段階で，黒く濁った溝状の遺構と焼土を検出したため，当初6×6ｍ程度に拡張し，さらに類須恵器のほぼ完形の鉢が出土したためさらに拡張して，5トレンチまで含めて約180㎡について調査を行った。標高約54ｍで，表土の下はⅢ層の茶褐色粘土で，表土の厚さが約30㎝ある。

1）遺　　構（第8図）

(1)　概　　要

Ⅲ層上面で，焼土の円形と楕円形の落ち込みと，黒色土のはいった浅い帯状の落ち込み，黒色土と黒褐色土のはいった柱穴が多数検出された。焼土の円形と楕円形の落ち込みから調査し，他の遺構については，時間の制約と確認調査の性格から，検出面を記録にとって埋めもどした。柱穴の埋土は黒色土と黒褐色土で，黒色土が新しく締まりがないが，黒褐色土のものがほとんどであった。黒色土が新しく，黒褐色土は古い埋土である。遺物は，1の類須恵器がほぼ完形で出土した。溝状遺構がもっとも新しく，溝状遺構と近い時期に炉跡があり，中世の建物跡が最も古い。溝状遺構と炉跡については近世の可能性がある。

(2)　掘立柱建物

1号炉跡と2号炉跡の周辺の柱穴は，黒色土の埋土をもち，他は黒褐色の埋土の柱穴である。ほぼ正方形に1間×1間の建物跡を2棟検出した。柱穴の埋土と出土遺物から，中世の時期のものであろう。柱穴については，掘りあげていないので，巻畑Ｂ遺跡のように時期の特定が困難ではある。また他の建物跡の把握も難しい。柱間は1号建物跡が南北235㎝×東西275㎝，2号建物が南北250㎝×東西270㎝で規模もほぼ等しい。1号建物跡の西側約140㎝から1と2の類須恵器が重なって出土し，これが建物跡の時期と判断される。

(3)　炉　　跡（第9図・第10図）

焼土の円形（1号）と楕円形（2号）の落ち込みは，特に張り出し部分が赤化し，外周を粘土が巡っており，それぞれ半裁し調査した。赤粘土帯が幅約15㎝円形ないし楕円形に巡り，なかには炉壁と判断される焼けた粘土のブロックと赤色の焼土と灰褐色粘土が混ざって入っている。底面には黒褐色の固着がある。表土剝ぎの段階で，鉄滓・鉄製品が出土し，炉跡については鍛冶跡の可能性を考慮しながら調査したが，それぞれ1，2点の出土で，鍛冶滓にしては量が少なく，炉跡からも明確に伴って出土しなかった。焚口が1号炉跡と2号炉跡ともに東側に向いている。これは現地の地形から東風があたりやすかったためと思われる。

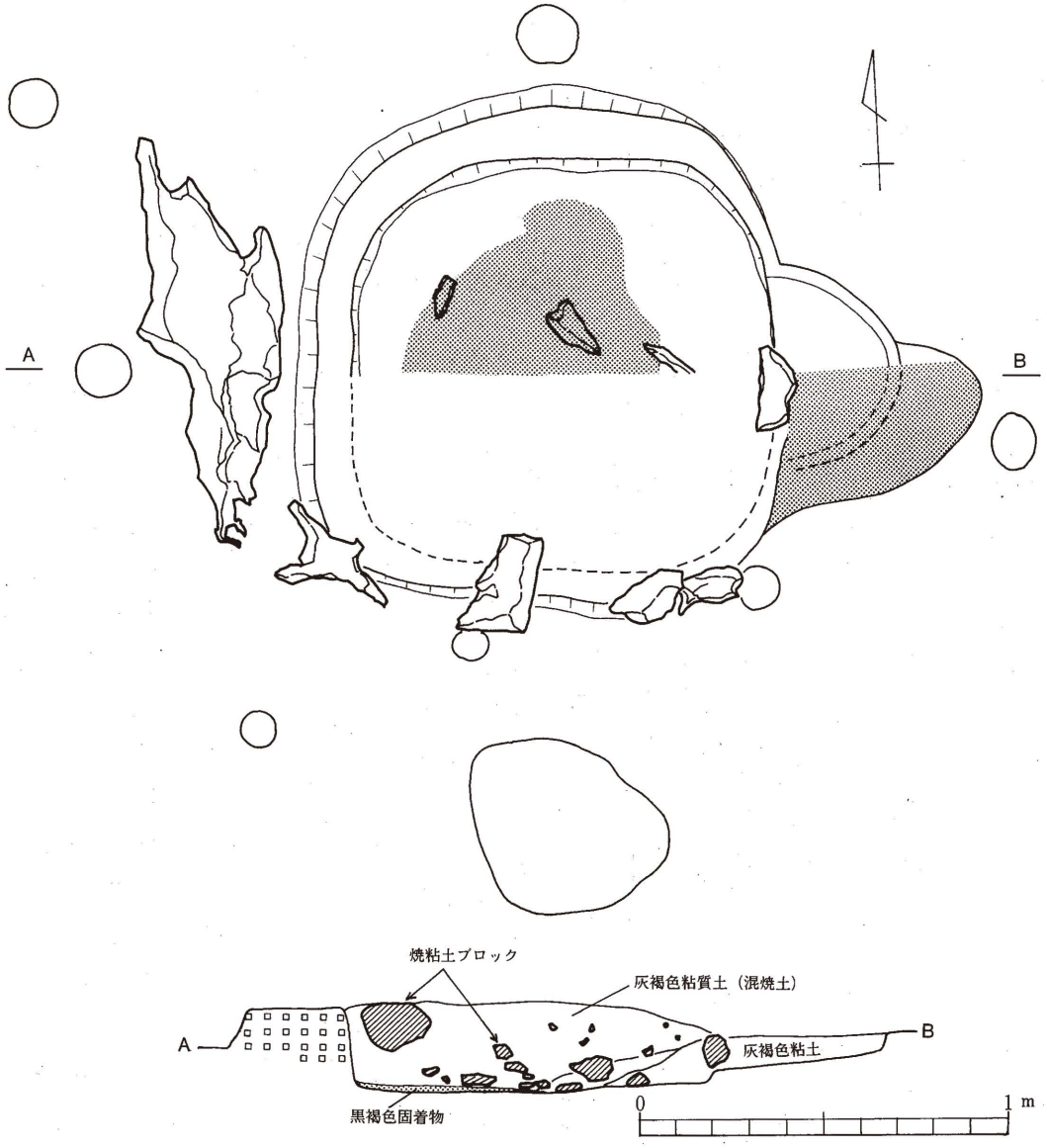
ア）1号炉跡（第9図）

西側に隆起珊瑚礁の石灰岩があり，南側にも数個の珊瑚礫があった。外周を赤色粘土帯が東西180㎝×南北140㎝の大きさで，幅約15㎝・高さ約10㎝で円形に巡り，その周囲に柱穴が検出

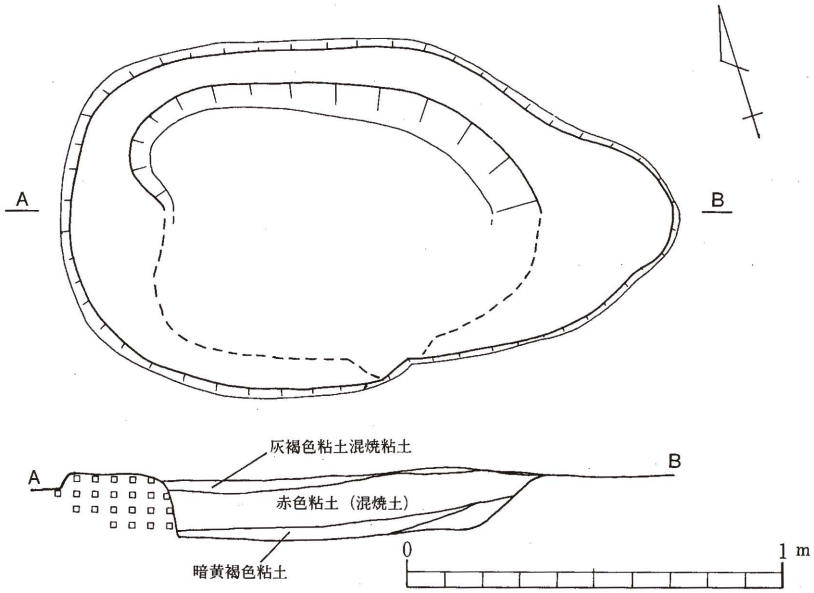
された。炉壁と判断される焼けた粘土のブロックが，粘土帯のなかの埋土に明確に検出できる。張り出し部分については，粘土帯が切れ，赤化が激しいことから焚口と考えられる。この部分には別に灰褐色の粘土が敷かれており，炉底に黒褐色の固着物が堆積していた。

イ）２号炉跡（第10図）

１号炉跡の３ｍほど北東に，楕円形の炉跡が検出された。長軸96㎝×短軸16㎝で，幅20㎝・高さ10㎝弱の粘土帯がまわる。１号炉跡ほど焼土や焼けた粘土ブロックを伴わないが，同じ用途に使用されたものであろう。



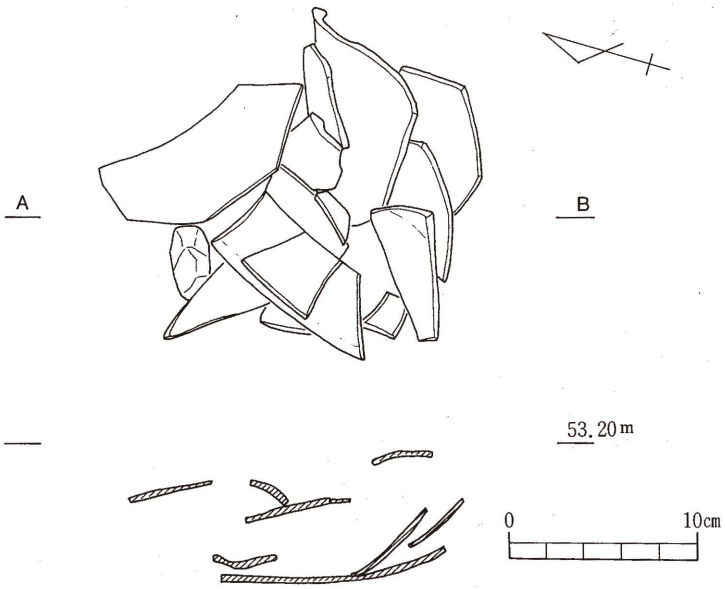
第９図　オン畑遺跡１号炉跡



第10図　オン畑遺跡２号炉跡

(4) 溝状遺構

切り合いの関係から最も新しい遺構である。幅130cm弱で東西方向と南北方向に直角に交わっている。一部を断面で掘ってみたが，埋土は黒色土で固くしまっており，深さは15cm程でレンズ状に堆積している。一部に鉄分層の堆積がある。古道にしては，プランが明確でかつ黒色土の埋土がそぐわない。１号炉跡のまわりの柱穴と同一の埋土にみなされ，同じ時期の排水用の溝がもっとも考えやすい。他の遺構との明確な関係が明らかでないが，瓦器の出土など比較的新しくなる可能性がある。

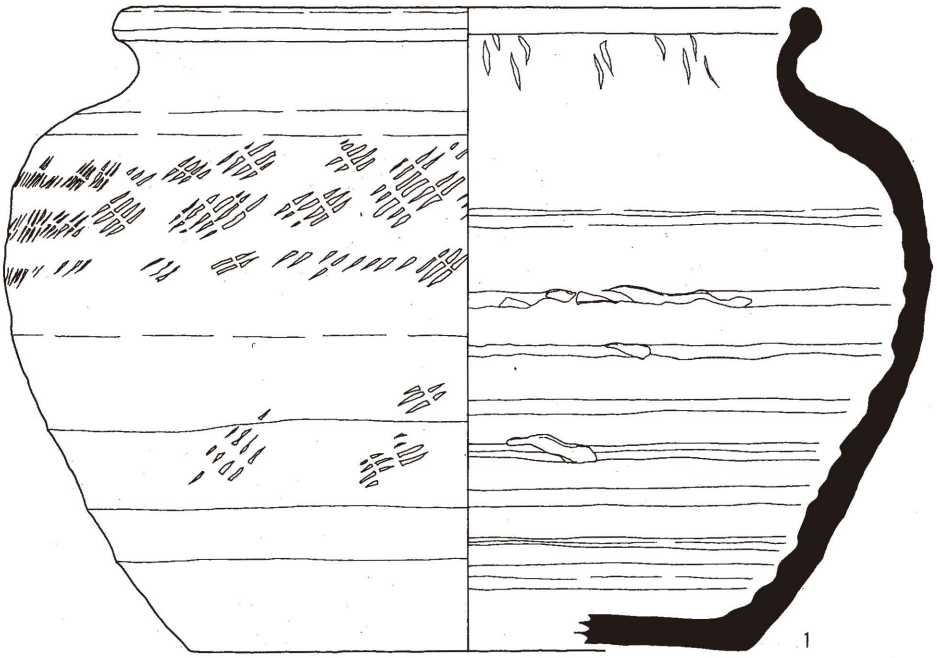


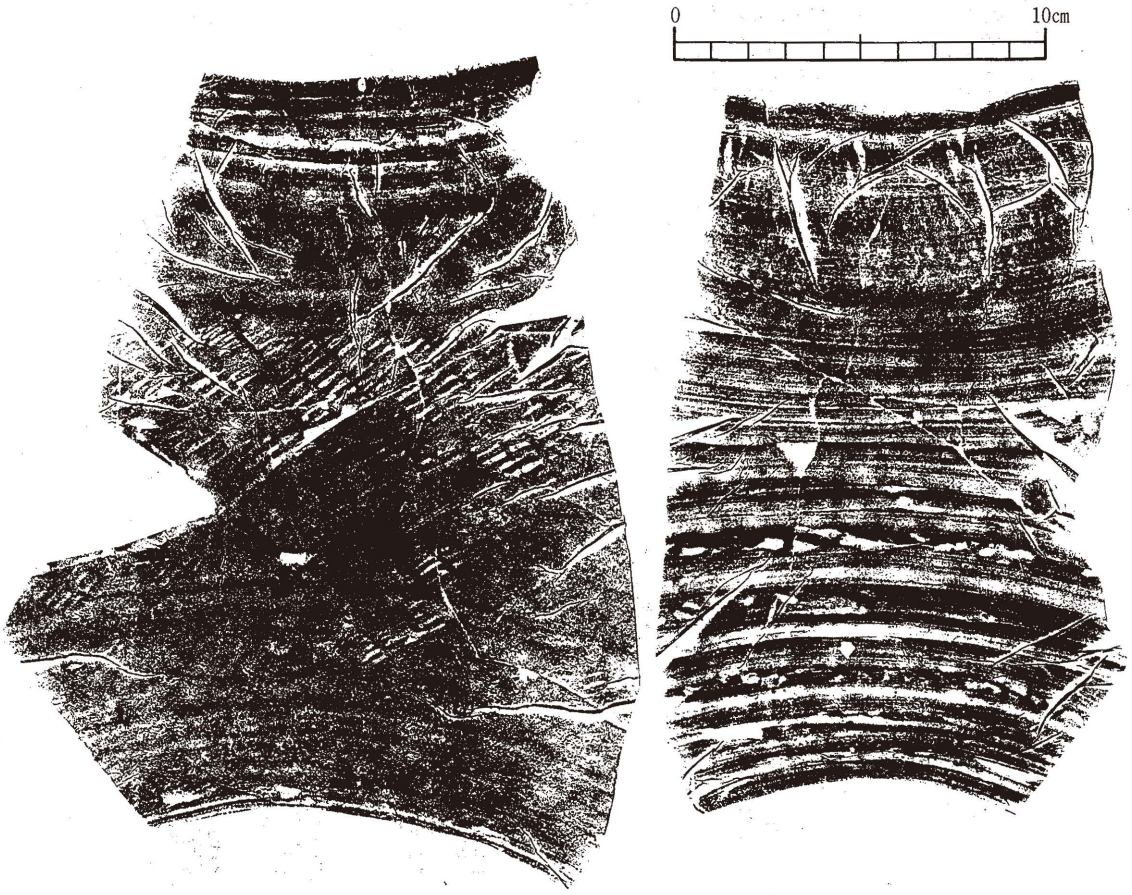
第11図　類須恵器出土状況

２）遺　　物

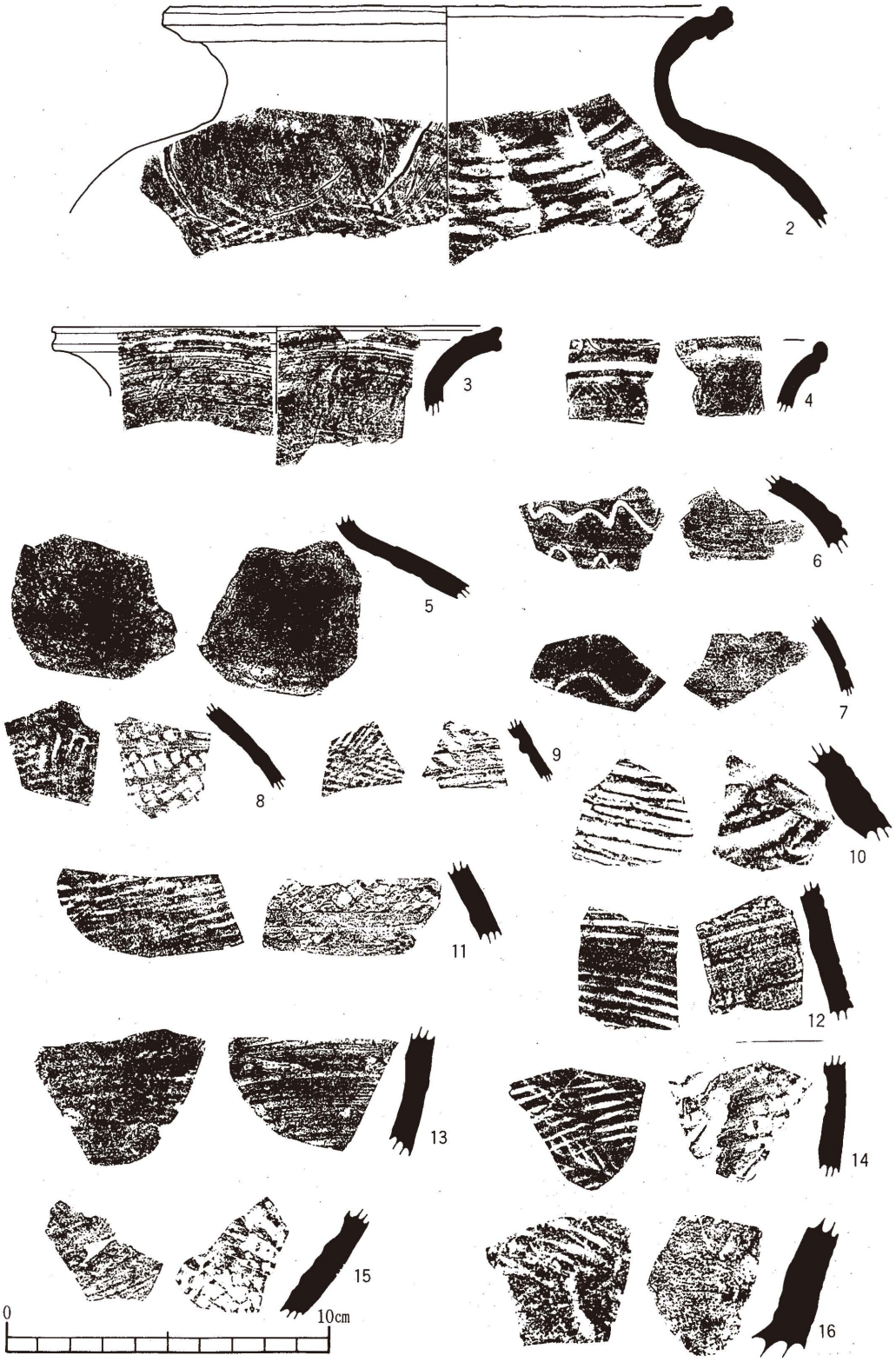
（第12図～第14図）

１号建物跡の西側約140cmから１と２の類須恵器が重なって出土した。その出土状況が第11図である。

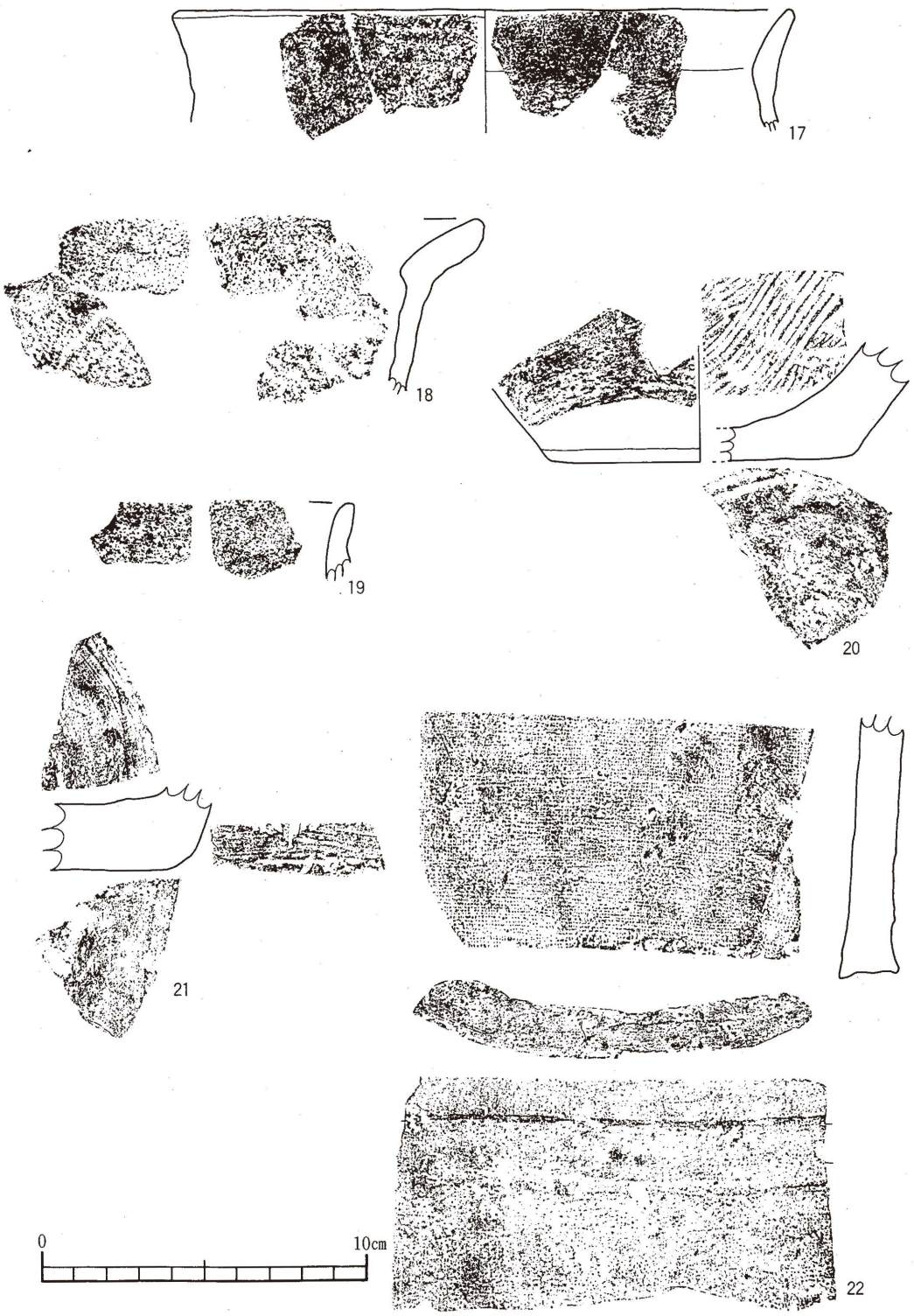




第12図　オン畑遺跡出土の遺物(1)



第13図　オン畑遺跡出土の遺物(2)



第14図　オン畑遺跡出土の遺物(3)

1は鉢で，口縁部は玉縁状に膨らみ，外面肩部に平行タタキ目を残す。2は壷で，外面肩部以下に浅い平行タタキ，内面に目の粗い平行タタキを残している。3～16が類須恵器の破片で，6・7は波状の沈線を施し，4・8・9・10・11・12・14・16は外面に条痕タタキ，8・11・12・14・15は内面に正格子タタキが残る。17・18は素焼きの土器片である。20・21は瓦器で，22が布目瓦の破片である。20・21・22については1トレンチの新しい遺構に伴うものであろう。

2.　2トレンチ

1トレンチの北側約13mの隣接する標高約52.5mの畑地に設定した。1トレンチの畑地とは1m弱ほどさがった畑地である。表土の下20cmでⅢ層が検出され，黒褐色の濁りがあったため拡張して約44m²について調査したが，遺物は出土せず，黒褐色の部分は石灰岩のまわりの風化の度合いの違いと判断された。

3.　3トレンチ

2トレンチのさらに北側に約20mのところに傾斜方向に合わせて2×8mのトレンチを設定した。標高51.5mで，表土の下20cmでⅢ層が検出されるが，基盤岩である隆起珊瑚礁の石炭岩がすぐに露出し，遺物・遺構とも検出されなかった。

4.　4トレンチ

2トレンチの東側約45m，標高52.4mの所に設定した。当初幅2mで設定していたが，表土の下20cmのⅢ層上面で，黒褐色の濁りがあったため，拡張して約30m²について調査した。遺物は出土せず，黒褐色の部分は石灰岩のまわりの風化の度合いの違いと判断された。

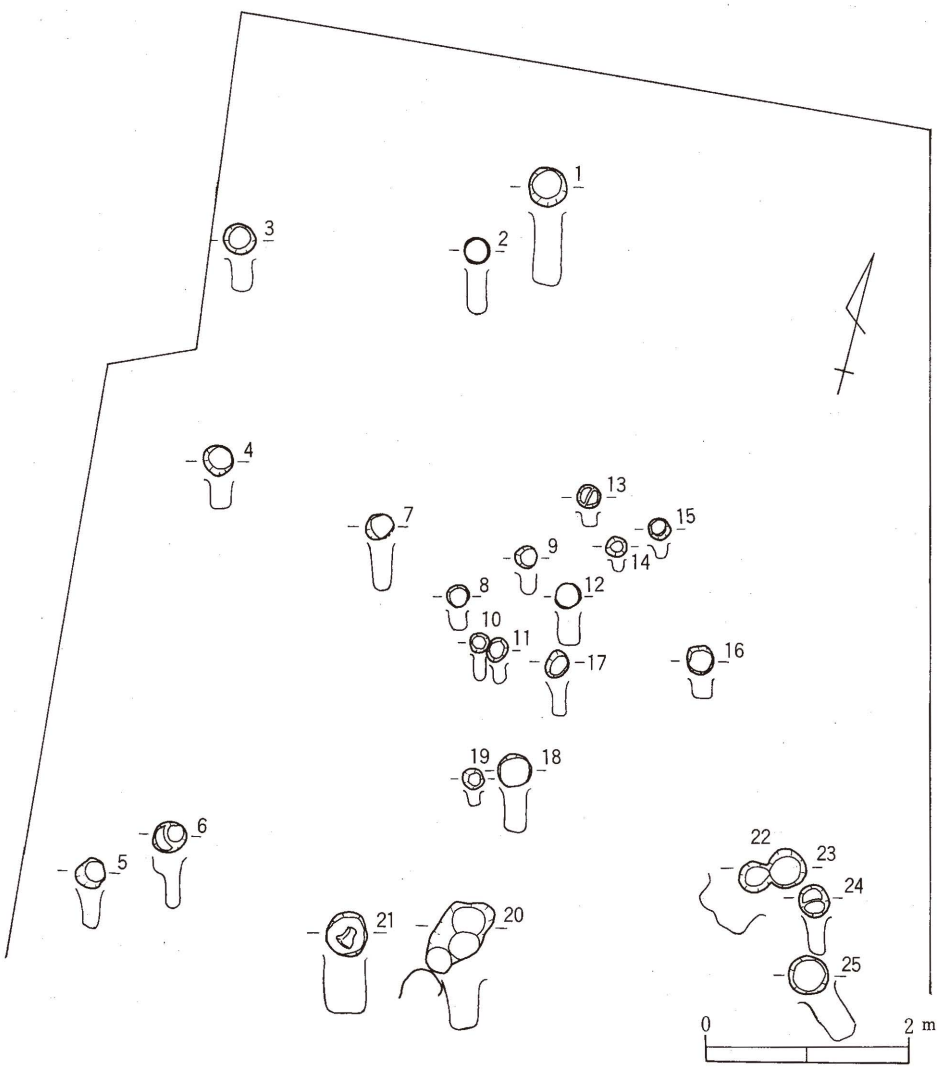
5.　5トレンチ

1トレンチの東側に2×5mで設定したが，1トレンチの拡張に伴って，1トレンチと同一の発掘区となった。

6.　6トレンチ（第15図）

1トレンチの西側約20mの標高54mのところに，遺構の広がりを確認するため設定した。柱穴を検出したため，拡張して約90m²について調査を行った。表土の下30cmのⅢ層に柱穴が25本掘り込まれてある。建物跡は明確にできなかったが，P2，P3，P4について1間×1間の建物跡の可能性がある。P21は平たい根石がおかれている。類須恵器片・鉄刀片・19の素焼きの土器片が出土した。時期的には1トレンチと同一時期のものと考えられる。

これらの結果，オン畑遺跡の残存している遺跡範囲は，1トレンチと6トレンチを設定した畑の約1,900m²である。また炉跡については，サトウキビから黒砂糖を精製するための野外炉が近代まで使用されていたことから，この野外炉の可能性もある。



第15図　オン畑遺跡６トレンチの柱穴

第３節　巻畑Ｂ遺跡

小野津字巻畑に所在する。遺跡のある台地は北・東へは緩やかに下っているが，西端は25ｍほどの段差をもって急崖をなしている。当遺跡はこの台地の西端近くにある。県道北本線から北海岸へ向かって緩やかに下降する地形にあり，調査対象地は県道の近く付近で，標高が46.5ｍから48ｍである。調査対象面積約5,000㎡に対して５本のトレンチを設定し，柱穴の発見されたトレンチは拡張したため調査総面積は140㎡である。

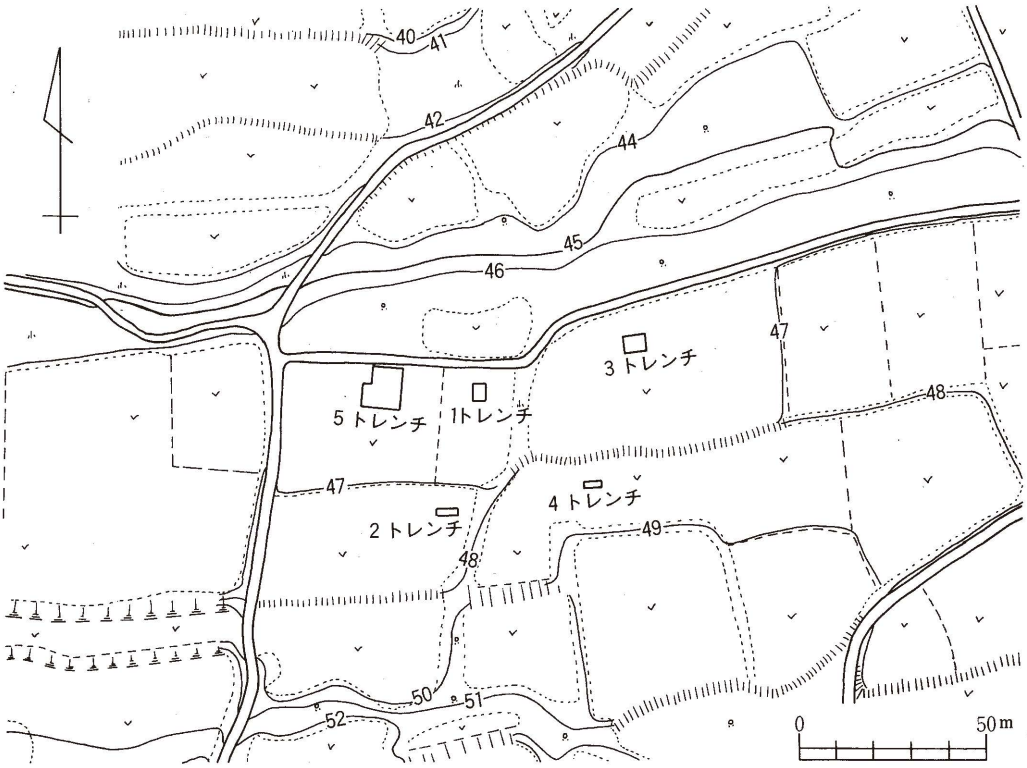
1.　１トレンチ

頭初，南北に長い２ｍ×５ｍのトレンチを設定したが，柱穴が発見されたため，東へ２ｍ拡張して４ｍ×５ｍのトレンチとした。標高約46.8ｍである。表土（耕作土）の下はⅢ層の茶褐色粘土で，表土の厚さが約65㎝ある。

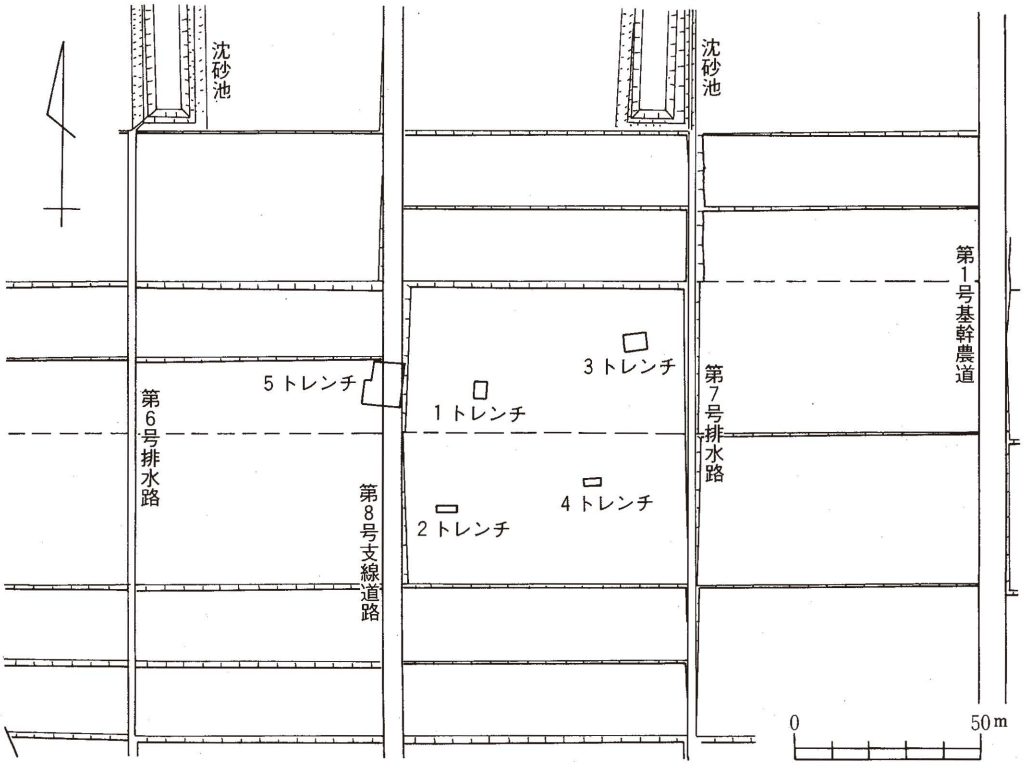
１）遺　　構

(1)　概　　要

Ⅲ層上面で黒褐色土のはいった柱穴が17検出された。柱痕跡はなく，ほとんどが円形の平面形を呈し，直径は15㎝～45㎝ある。穴の深さは15㎝～30㎝あり，割合にしっかりしている。Ｐ１には底近くに石が置かれていた。中央にある６本の柱穴で１間×２間の掘立柱建物が想定できたが，他にまとまるものはなかった。



第16図　巻畑Ｂ遺跡トレンチ配置図（施工前）



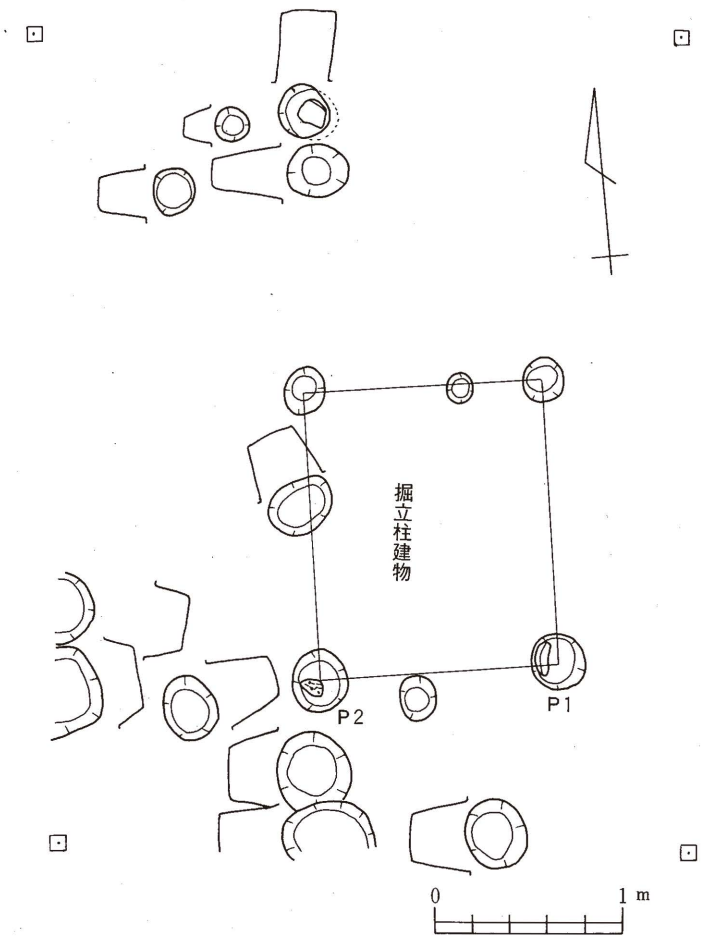
第17図　巻畑Ｂ遺跡トレンチ配置図（施工後）

(2)　掘立柱建物

南北方向に長い１間×２間の建物である。心心での柱間は北側が東から45cm＋85cmの130cm，南側が東から75cm＋55cmの130cm，東側が152cm，西側が155cmである。柱穴の規模は北側が東端が直径24cm，深さ25cm，中央が直径15cm，深さ13cm，西端が直径25cm，深さ37cm，南側が東端が直径30cm，深さ28cm，中央が直径20cm×25cm，深さ10cm，西端が直径30cm，深さ30cmである。南側では東端柱穴の底に珊瑚礫，西端柱穴の底に滑石製石鍋の二次加工品が置かれていた。

南西隅の柱穴内から須恵器片１，滑石製石鍋の破片２が出土した。23は壷の肩部で，ここにヘラによる左から右への３条の波状文が描かれている。内外とも横方面のヘラナデで仕上げているが，内面には正格子タタキの痕跡らしきものがみられる。外面が黒灰色，内面が青灰色，内部が赤みがかった茶褐色を呈し，やや軟質である。白色石・黄色石など細かい土を用いている。

24と25は滑石製石鍋の二次加工品である。24は厚さ1.5cmの石鍋の胴部で外にはススが付着している。外面は縦方向，内面は縦あるいは左下がり方向の細かいケズリ痕がみられる。長方形に近く割れており，外は大きく剝脱痕がみられる。長辺の一部には二次的にケズった痕がみられ，再加工の意図が伺える。25は内外ともススの付着した胴部破片で外面には細かいケズリ痕がみられる。周辺を丁寧にケズってナスビ形に仕上げている。縦14cm，最大幅9.5cm，厚さ1.5cmである。貫通している孔が３個，裏に未貫通の穴が１個ある。孔は裏から穿ったもの



第18図　巻畑Ｂ遺跡１トレンチの柱穴

と，表から穿ったものとがあるが，いずれも一方通行である。表の方は尖った方に筋状のものがある。他に細い線状のものがみられる。裏には深い沈線が縦あるいは右上がり方向にみられる。

２）遺　　物

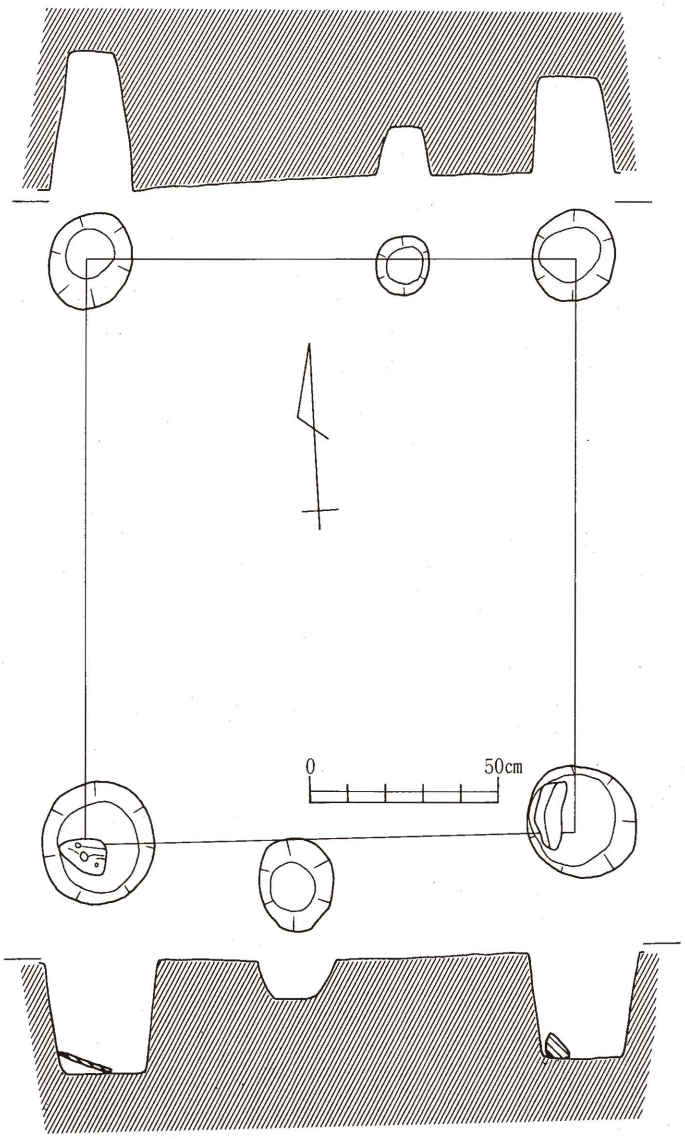
１トレンチでは表土から土師器甕片１，Ⅱ層から土師器甕片38，須恵器１，内面に布目のある陶器１，天目１，現代白磁２（碗１・チョコ１），フイゴの羽口２，鉄滓１が出土している。26と27はⅡ層で出土した土師器甕の口縁部である。ともに外反して端部は丸くおさまる。26は太めのもので，内外とも磨滅している。明茶褐色を呈しているが，表面は黒っぽい。石英・白色石の細かい石を多く含み，焼成は普通である。27は小形のもので強く外反し，端部は細い。これも明茶褐色を呈しているが，表面は黒っぽい。胎土・焼成度とも26に似ている。フイゴの羽口は土師質で，内面は赤茶褐色，外面は灰褐色を呈している。

28は須恵器壷の破片で，内外とも横方向のナデで仕上げている。青っぽい灰色を呈し，外には自然釉が付着している。白色石・黒の輝石・黒色石・石英などの細かい微礫を用いているが，部分的に小礫も含まれている。焼成は良好である。

３か所の柱穴から遺物が出ている。Ｐ１から土師器甕片１，須恵器甕片２，Ｐ３から土師器甕片１，Ｐ５から土師器甕片１が出ている。29と30はＰ１から出土した須恵器甕片である。29は表が横方向の条痕タタキ，裏が左下がりの条痕タタキである。淡い灰褐色を呈し，焼成は普通である。白色石を多く含む胎土を用いている。30は表が小さい正格子タタキ，内面が左下がりの条痕タタキである。青っぽい灰色をしているが，外面はやや濁っている。白色石を多く含む細かい胎土を用いており，焼成は良好である。

2.　2トレンチ

2トレンチは1トレンチの南側約30ｍの所に設定した。1トレンチより約1ｍ高い標高47.9ｍの位置である。東西に長い2ｍ×5.5ｍのトレンチで厚さ約20㎝の表土の下はⅢ層の茶褐色粘土で，基盤の珊瑚もあちこちに露出している。遺構はなく，表土から土師器甕片1が採集された。



第19図　巻畑Ｂ遺跡1トレンチの掘立柱建物

3.　3トレンチ

1トレンチの東側約40ｍに設定したトレンチで，頭初南北に長い2ｍ×5ｍであったが，柱穴状の落ち込みがみられたため拡張し，東西に長い5ｍ×6ｍとした。標高約46.8ｍで北へ緩やかに下降している。表土が約20㎝で，その下は茶褐色粘土である。この面を清掃して30～40㎝の円形状落ち込みを6検出した。しかし穴は整然としておらず，遺物の出土もみられなかった。このことから自然の落ち込みと判断した。このような穴はあとで巻畑Ｃ遺跡やオン畑遺跡などでも見ることができた。

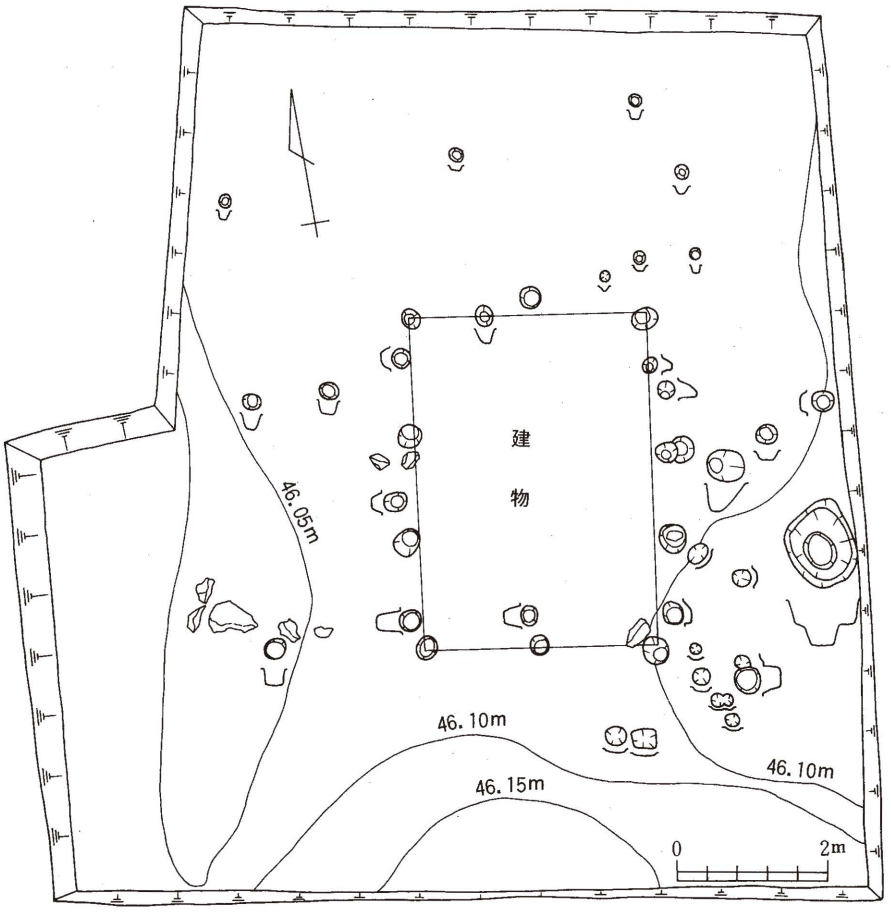
このトレンチの表土からは土師器甕片が11点，土師器坏片が3点，うすい須恵器甕片が1点，滑石が1点出土している。31は厚さ1.3㎝の滑石製石鍋の二次加工品で側面の一部を丁寧に磨いているが，未完成である。

4.　4トレンチ

3トレンチの南約40m，2トレンチの東約40mに設定した2m×5mの東西に長いトレンチである。標高約47.6mで，表土（白っぽい淡茶褐色粘質土）が約20cm，その下に約20cmの黒色粘土，さらに淡茶褐色粘土と続く。珊瑚が各所に露出している。遺構・遺物とも発見されなかった。

5.　5トレンチ

1トレンチの西側約25mに設定したトレンチで，柱穴が多く発見されたため拡張を繰り返して，最終的には10.5m×11.5mとなった。東から西へ下降しており，標高46.5m～46.2mである。表土の厚さが25cm～40cmで，その下は茶褐色粘土（Ⅲ層）であるが，その下の珊瑚礁があちこちに露出している。

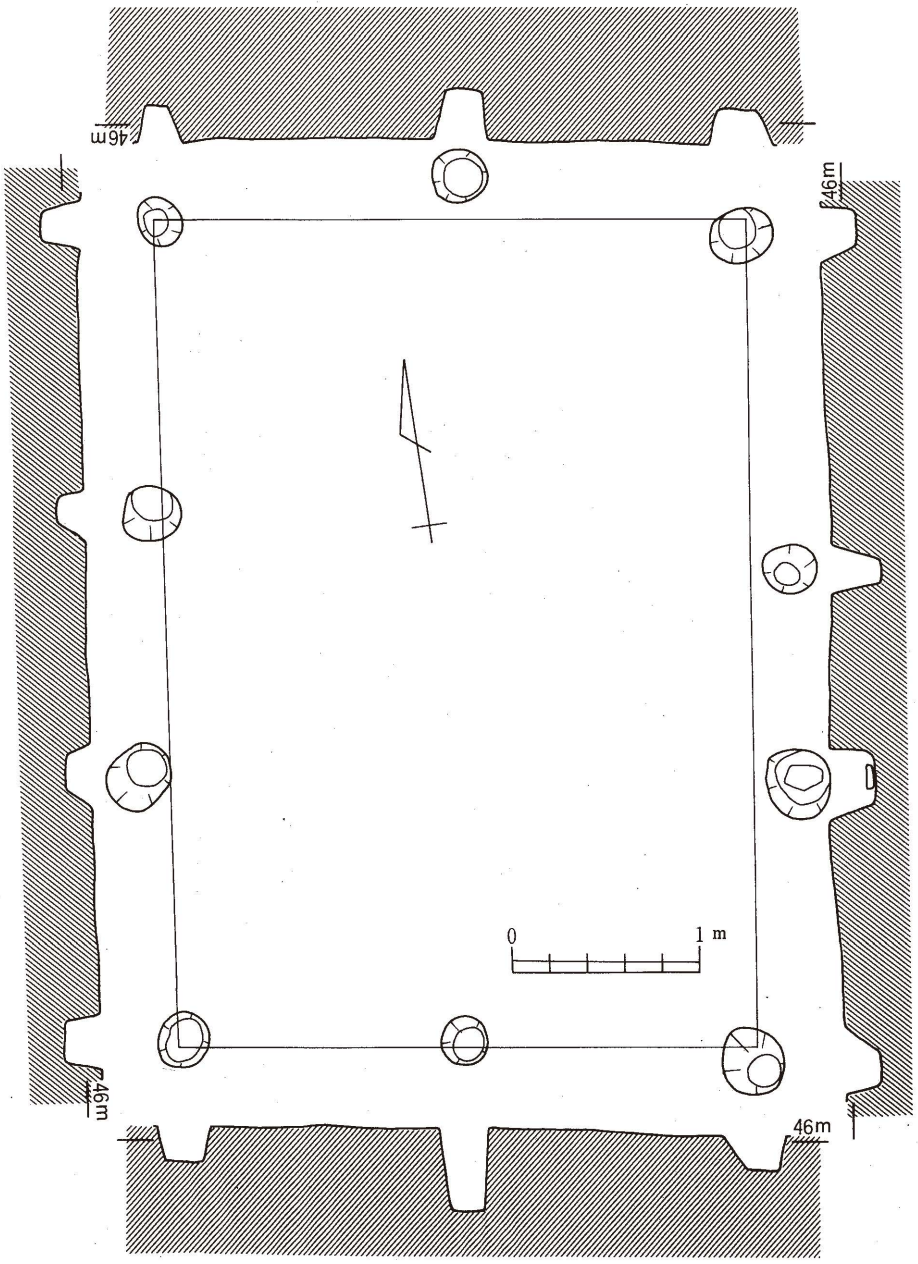


第20図　巻畑B遺跡5トレンチの柱穴

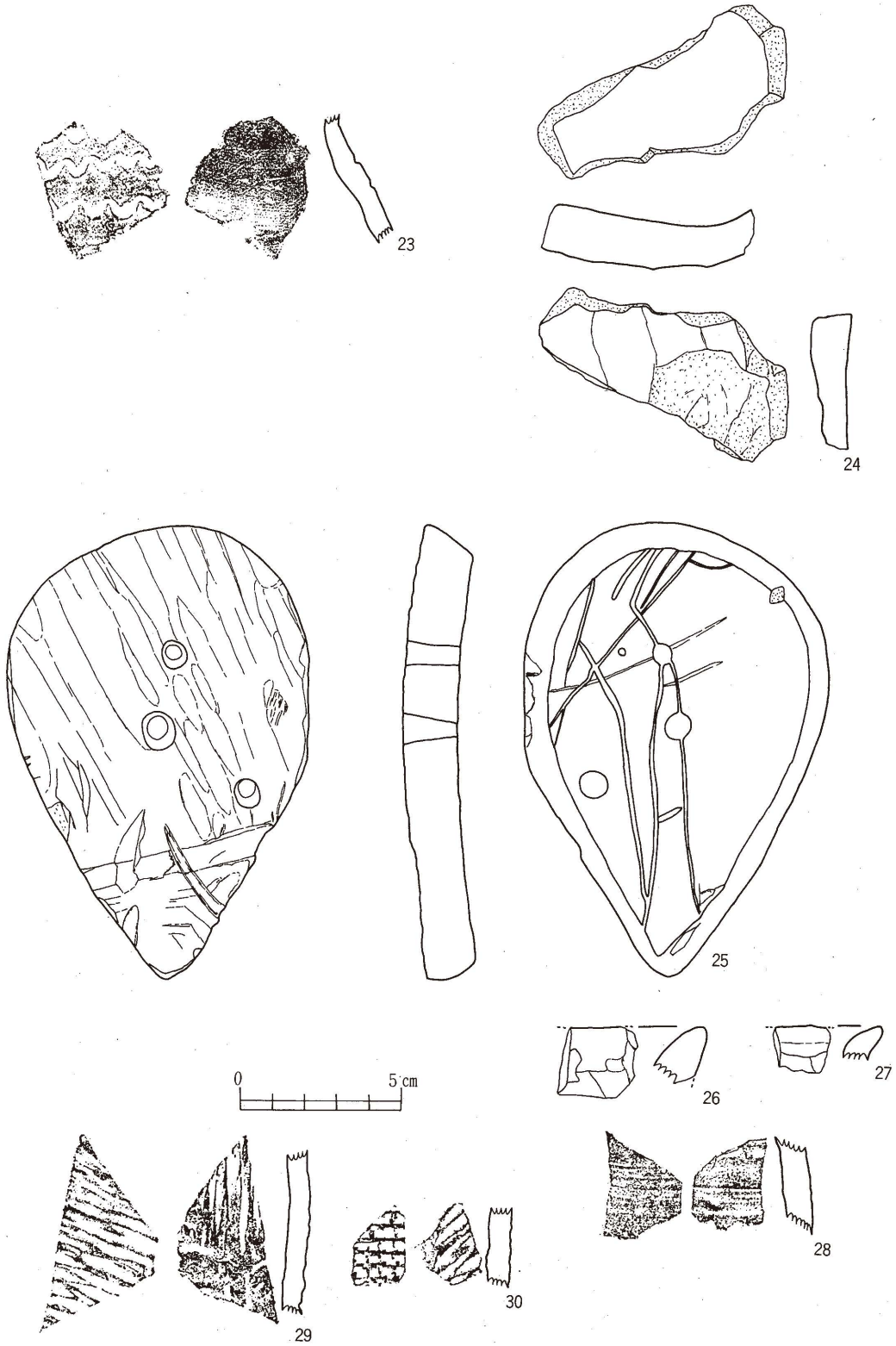
1）遺　　構

(1) 概　　要

Ⅲ層上面で黒褐色土のはいった柱穴が44検出された。ほとんどが円形の平面形を呈し，直径は15cm～40cmある。穴の深さは7cm～37cmである。トレンチの東端近くにある柱穴は一辺約1mの隅丸方形を呈し，中央付近に直径50cmの柱痕跡がある。柱痕跡の底までは深さが60cmある。



第21図　巻畑Ｂ遺跡５トレンチの掘立柱建物



第22図　巻畑Ｂ遺跡出土の遺物(1)

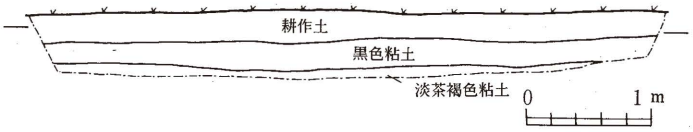
規模の大きい柱穴であるが，これと組み合わさるものは見つからなかった。柱穴の中でまとまる掘立柱建物が一棟あった。

(2) 掘立柱建物

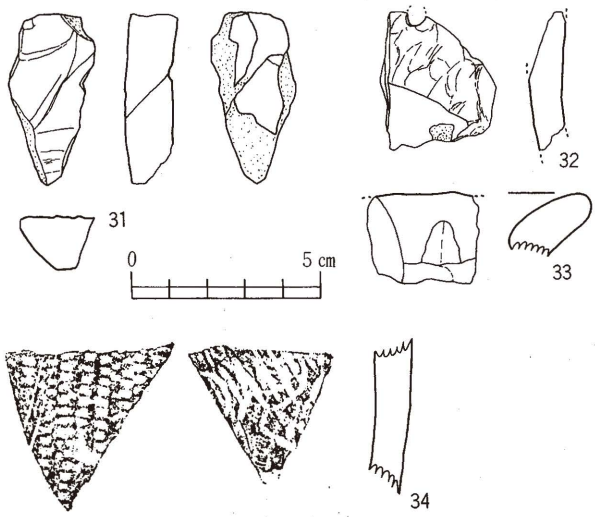
南北方向に長い２間×３間の建物である。心心での柱間は北側が東から1.6ｍ＋1.6ｍの3.2ｍ，南側が東から1.4ｍ＋1.6ｍの3.0ｍ，東側が1.8ｍ＋1.2ｍ＋1.4ｍの4.4ｍ，西側が1.4ｍ＋1.4ｍ＋1.6ｍの4.4ｍである。柱穴の規模は北側が東端が直径30cm，深さ20cm，中央が直径28cm，深さ25cm，西端が直径24cm，深さ20cm，南側が東端が直径34cm，深さ20cm，中央が直径26cm，深さ45cm，西端が直径30cm，深さ20cmである。また東列は中央北側が直径30cm，深さ15cm，中央南側が直径36cm，深さ13cm，西列は中央北側が直径30cm，深さ27cm，中央南側が直径36cm，深さ23cmである。東列の中央南側の柱穴底には根石が置かれている。東柱列北から２番目の柱穴からは須恵器甕の破片（第24図34）が出土した。外面は細かい長方形格子タタキ，内面は条痕タタキである。淡い灰色を呈しており，焼成はやわらかい。白色石・石英などの細かい石を多く含んだ細砂質の胎土である。

２）遺　　物

５トレンチではⅡ層から土師器甕の破片１，ピット25からフイゴの羽口１，ピット36から滑石製石鍋の破片１が出土している。33は土師器甕の外反する口縁部である。暗茶褐色を呈し，白色石などの細かい石を多く含んでいる。表面の磨滅が激しい。フイゴの羽口は表面が灰色，内面が淡い茶褐色を呈し，石英などの微石を多く含んでいる。石鍋（32）は厚さ１cmと薄く，直径１cmほどの孔があいている。



第23図　巻畑Ｂ遺跡４トレンチ断面図



第24図　巻畑Ｂ遺跡出土の遺物(2)

第４節　巻畑Ｃ遺跡

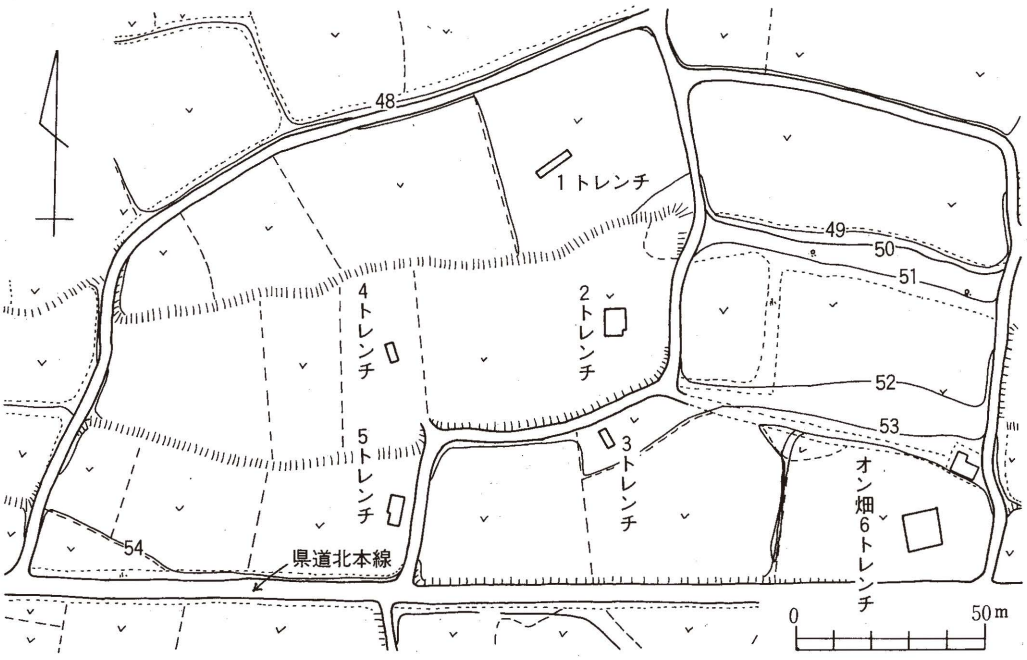
小野津字巻畑に所在する。巻畑Ｂ遺跡の南東方向約250ｍ，オン畑遺跡の北西方向約150ｍに位置し，両遺跡の中間にある。ここも県道北本線から北海岸へ向かって緩やかに下降する地形にあり，遺跡は標高49ｍから53ｍのあたりにある。調査対象面積12,000㎡に対して，５本のトレンチを設定し，調査総面積は100㎡となった。

1.　１トレンチ

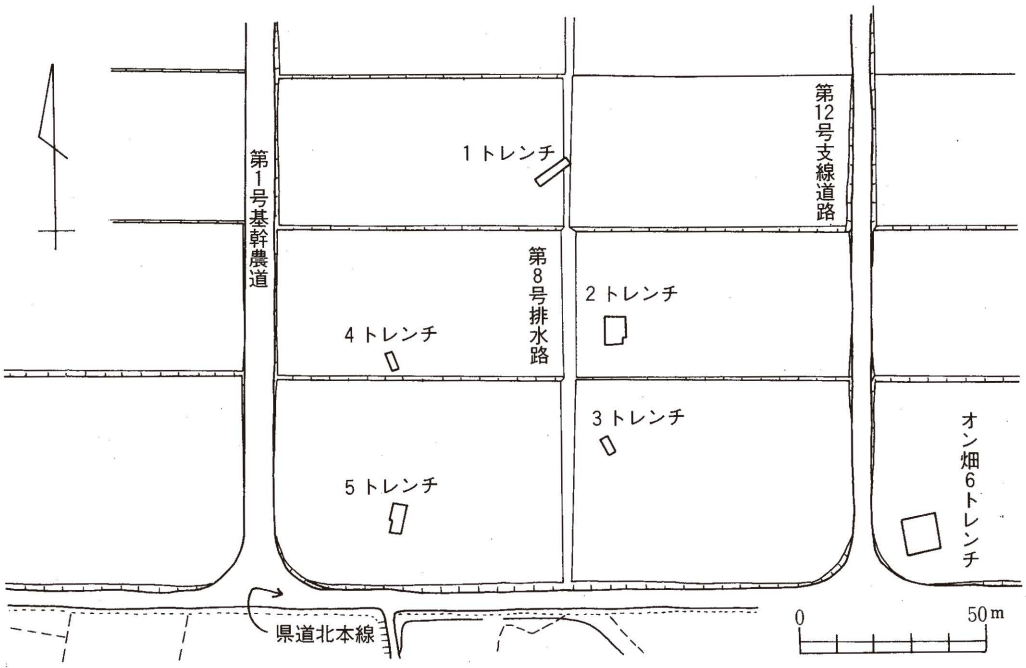
遺跡の北端近くに設定した東西に長い２ｍ×10ｍのトレンチである。標高47.9ｍで，厚さ25㎝～40㎝の表土の下は淡茶褐色粘土で，60㎝以上の厚さがある。部分的に黒色粘土が残っている所があり，また珊瑚の露出している所もある。遺構・遺物とも発見されなかった。

2.　２トレンチ

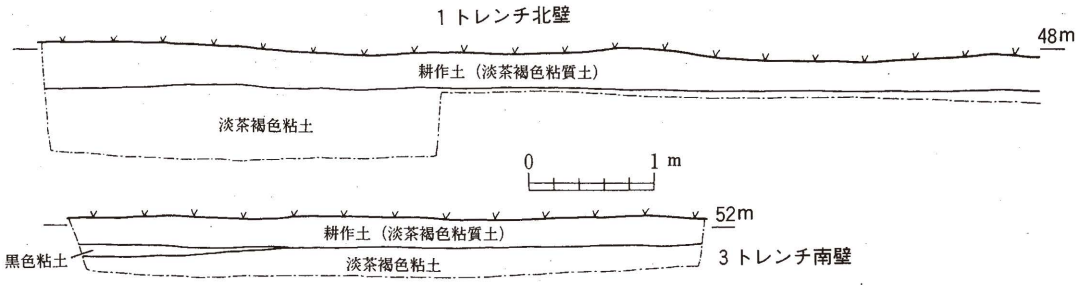
１トレンチの南約40ｍの所に設定したトレンチで，頭初２ｍ×５ｍの広さだったが，柱穴が検出されたため拡張し，６ｍ×7.5ｍになった。標高50.4ｍ～50.7ｍで，北へ下降している。30㎝ほどの表土の下は茶褐色粘土であるが，南側を中心に珊瑚がブロック，環状に出ている。その間に黒色土が円形，楕円形，環状にまだらにはいっている。柱穴が６検出されたが，建物としてまとまるものはなかった。柱穴は浅いものが多く，直径は25㎝～45㎝，深さは７㎝～25㎝ある。



第25図　巻畑Ｃ遺跡トレンチ配置図（施工前）

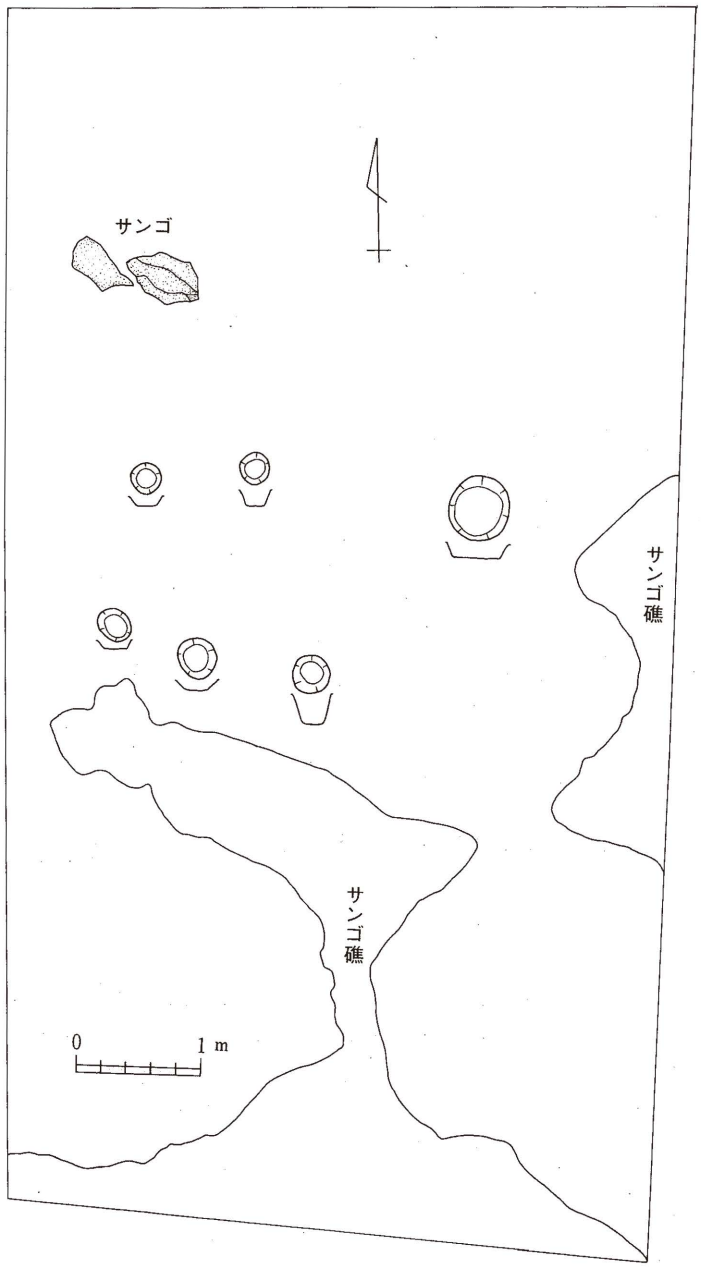


第26図　巻畑C遺跡トレンチ配置図（施工後）



第27図　巻畑C遺跡断面図

表土から土師器甕破片２，須恵器甕片１が出土した。36は在地の須恵器甕の破片である。外面に条痕タタキ，内面に正格子タタキがある。外・内表面とも青灰色を呈しているが，内面は赤茶褐色である。白色石などの微石を多く含む細砂質土を用いている。南東隅の柱穴からは土師器甕破片２が出土した。35は外反する口縁部で端部は丸みを帯びている。内外とも横ナデで仕上げている。茶褐色を呈し，焼成は普通である。石英・白色石などの細かい石を多く含んだ砂質土である。



第28図　巻畑C遺跡２トレンチの柱穴

3.　３トレンチ

２トレンチの南約25ｍの所に設定した南北に長い２ｍ×５ｍのトレンチである。表土が約25cmあり，南側ではその下に黒色粘土が薄くあるが，北側では黒色粘土がなく，すぐ淡茶褐色粘土である。一部には円形に黒色粘土の落ち込みがある。遺構・遺物とも発見されなかった。

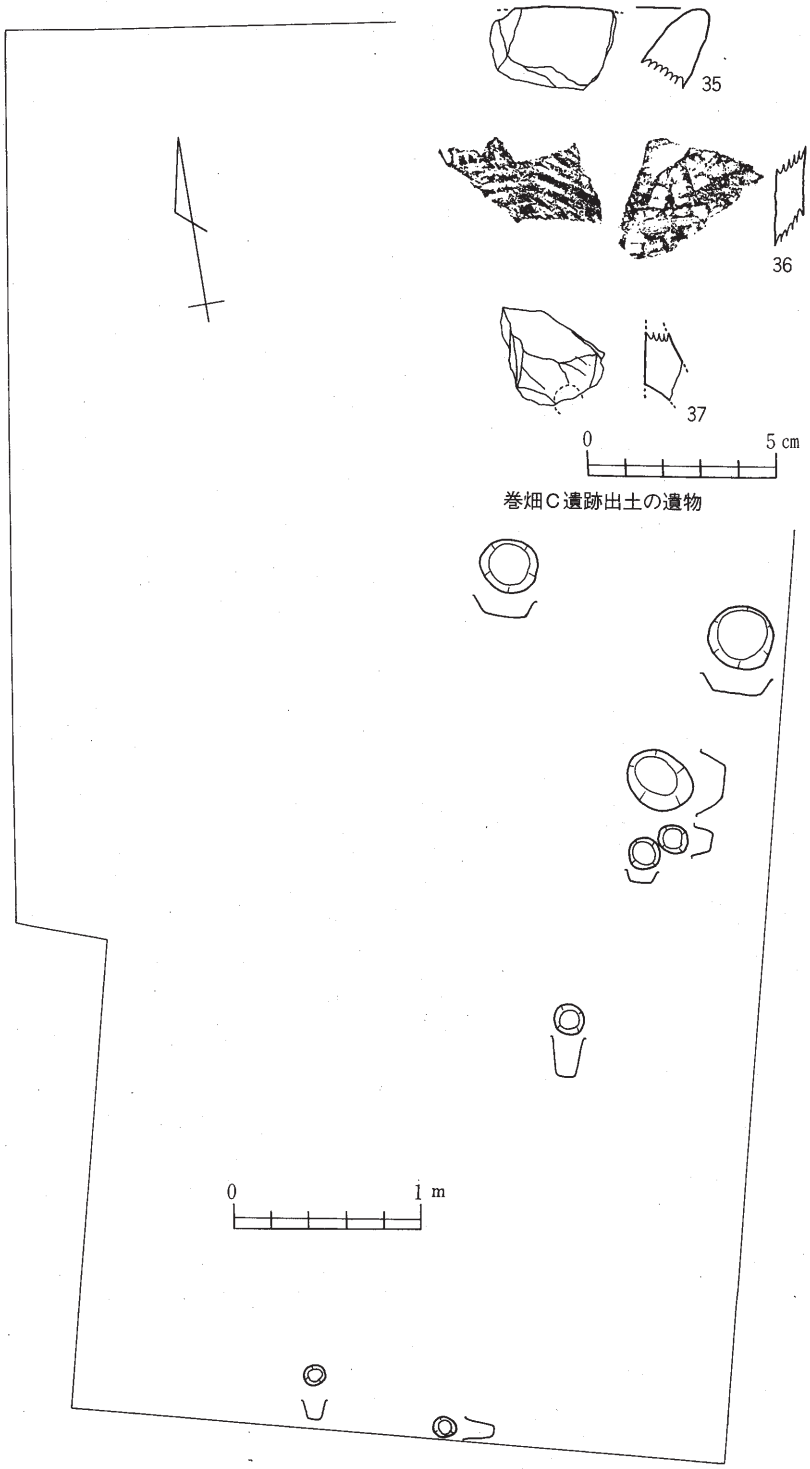
4.　４トレンチ

１トレンチの南西約60ｍ，２トレンチの西約60ｍに設定した南北に長い２ｍ×５ｍのトレンチである。淡茶褐色粘質土や珊瑚粒が多く含まれる表土が25cmほどの厚さにあり，その下は茶褐色粘土である。円形，環状を呈する黒色粘土の落ち込みが部分的にみられる。遺構は発見されなかったが，須恵器甕の破片２，琉球焼と思われる陶器片１が出土した。須恵器はいずれも在地のもので１点には内面に格子タタキがみられる。

5.　５トレンチ

４トレンチの南約40ｍに設定したトレンチで，柱穴がみつかったため拡張し，最終的には４ｍ×８ｍとなった。標高約52.8ｍで北へ緩やかに下降している。表土が約25cmあり，その下は茶褐色粘土である。茶褐色粘土の中には珊瑚がブロックあるいは環状に露頭しており，黒色土が円形，楕円形あるいは環状に落ち込んでいる。柱穴が８検出されたが，建物としてまとまるものはなかった。柱穴の規模は直径が10cm～30cm，深さが６cm～15cmと浅い。

滑石製石鍋片（第29図37）が１点出土した。小破片で形態がはっきりしないが，外面が斜め方向に傾いており，直径８㎜ほどの円孔が穿たれている。

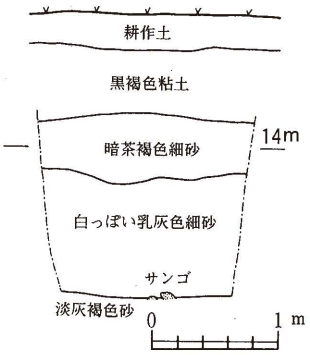


第29図　巻畑Ｃ遺跡５トレンチの柱穴

第５節　池ノ底散布地

小野津字池ノ底に所在する。

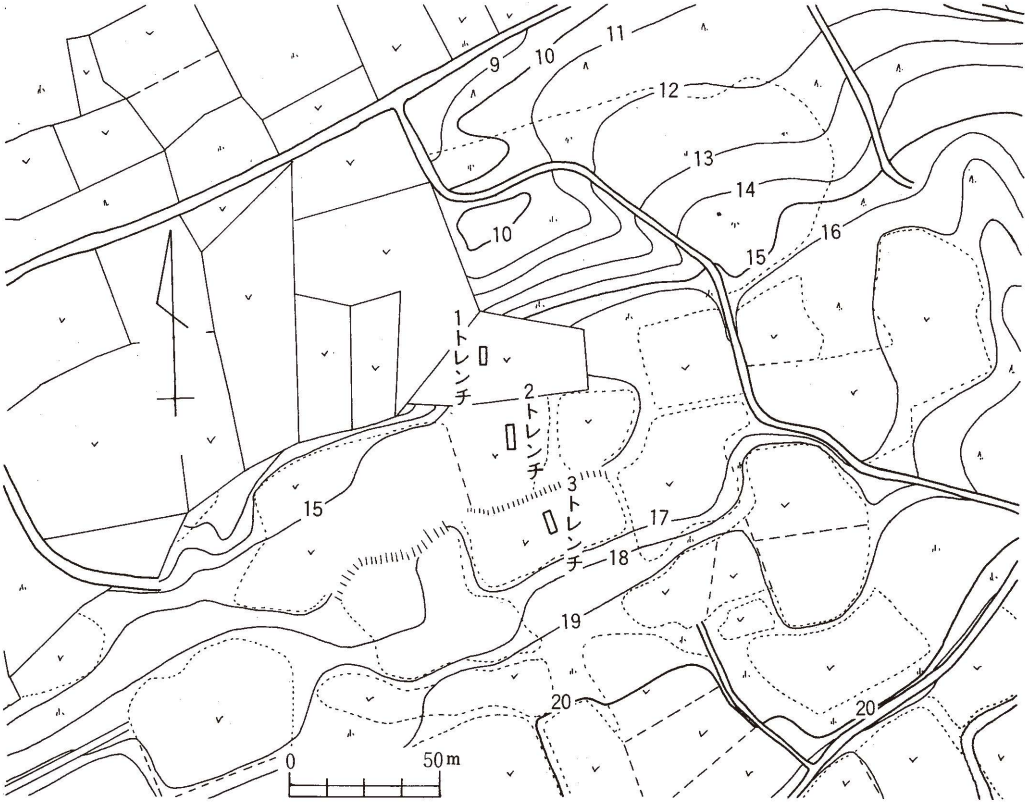
表面採集で土器片が採集されたため，約2,000㎡を対象にして調査を実施した。対象地は本来，北へ緩やかに下降しながら海へ達する地形を呈しているが，現在は平坦地に整地されて３段になっており，下段の標高は約12.5ｍ，中段の標高は約15ｍ，上段の標高は約16.5ｍである。海岸線までは約30ｍあるが，対象地の端から海岸線までは砂丘になっている。調査は３か所のトレンチと，１か所の土手削りとを行った。調査総面積は36㎡である。



第30図
池ノ底散布地土手断面図

下段に設けた第１トレンチ（２ｍ×５ｍ）は約60㎝掘り下げたが，表土（20㎝～40㎝）下が珊瑚まじりの淡い黒褐色細砂（35㎝～40㎝）その下に白っぽい淡褐色細砂があった。中段との間の断面と比較すれば，この砂は包含層から相当下の基盤層に近い層とみなされた。このことからこの段は砂採取が行われ，その後客土がされたものと思われる。

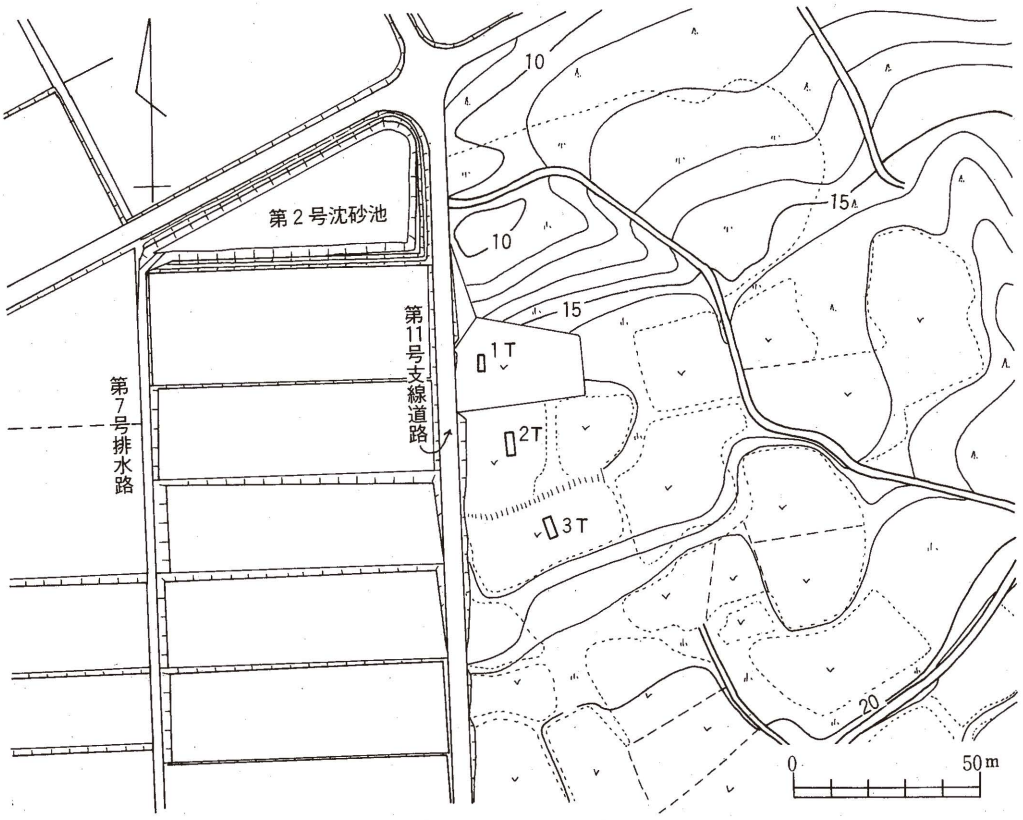
中段に設けた第２トレンチ（２ｍ×７ｍ）は包含層に該当する黒褐色粘土（Ⅱ層）が残っていたが，遺物は全く出土せず，遺構等もなかった。



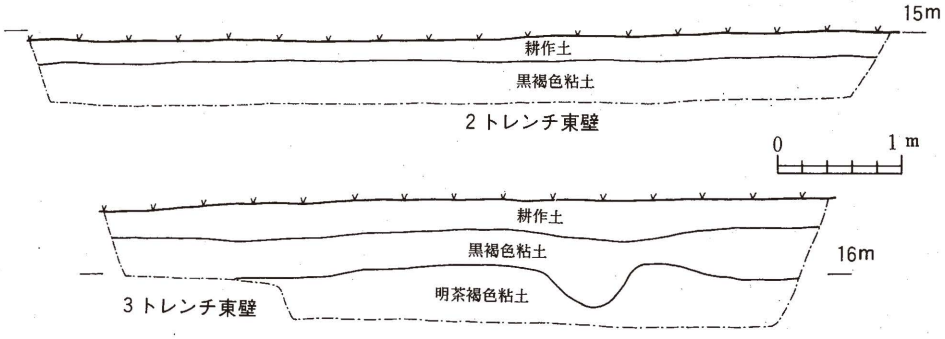
第31図　池ノ底散布地トレンチ配置図（施工前）

上段に設けた第３トレンチ（２ｍ×６ｍ）も黒褐色粘土（Ⅱ層）が残っていたが，遺物は全く出土せず，遺構等もなかった。

これらの調査結果から判断して，当地から採集された土器片は客土の中に入って持ち込まれたものと思われた。土手にも数cmの厚さに客土が打ちつけられており，この中から採集されたものであろう。



第32図　池ノ底散布地トレンチ配置図（施工後）



第33図　池ノ底散布地断面図

第V章　まとめにかえて

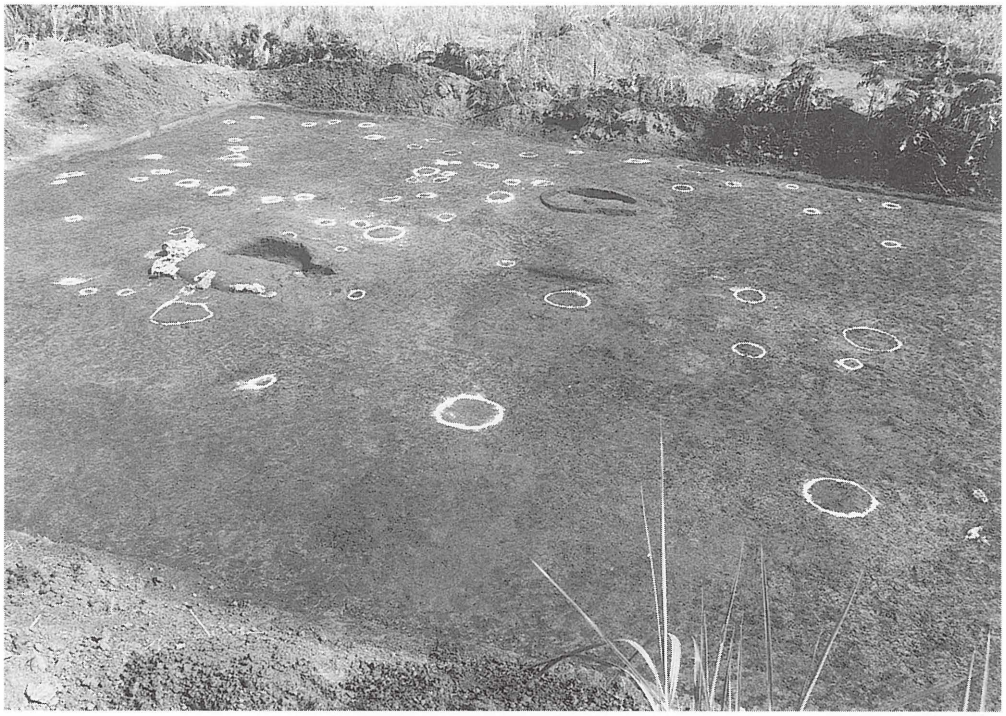
調査した4遺跡のうち池ノ底遺跡は，調査区内に遺物包含層がみられず，周囲の状況から現代になって他地点から遺物が持ち込まれた可能性が強い。今後は遺跡ではなく，散布地として扱いたい。残り3遺跡は，お互いに関連性をもちながら独立した村落形態をもっている。今回の調査で発見された遺物を主体としながら，それらがもついくつかの問題点を探ってみたい。

南西諸島の古代から中世における様相はいまだはっきりしない。しかし，従来考えられていたような閉鎖的イメージは，最近の出土資料によって大きく塗り変えられようとしている。

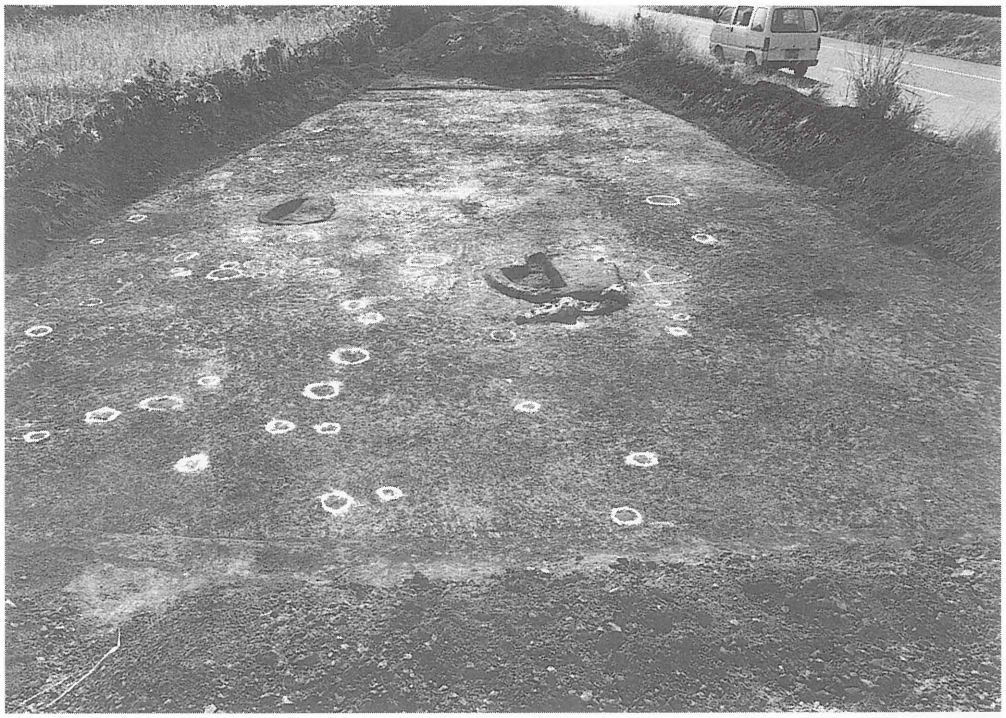
まず煮炊具の問題である。最近の調査によって，古代における在地の甕は従来弥生時代頃に位置づけられていた兼久式土器であることが知られてきた。しかし，当遺跡で出土している甕は，すべて内面がヘラケズリによって仕上げられており，口縁部が強く外反するという器形から考えても南九州本土的である。奄美大島の長浜金久遺跡では多量の兼久式土器に混ざって，ごく少量の本土系甕が出土している。それが今回の例では本土系の甕だけである。これをどう解釈したらいいのだろうか。時期差なのか，それとも島のもつ地理的条件なのか，この2通りが考えられよう。今回の調査では須恵器などの編年から大きく2つの時期が考えられる。すなわち，内面に同心円，あるいは条痕タタキのある須恵器甕から考えられる古代（平安時代頃か）と，類須恵器・石鍋の出土に象徴される中世前半（12世紀後半～13世紀前半）である。前者に共伴するとすれば長浜金久遺跡の例からして奄美大島よりいくらか北，あるいは東に位置するという地理的差異（潮の流れによる違いか）が考えられ，後者に共伴するとすれば長浜金久遺跡より新しいことによる時期差となるが，いずれにしても今後の類例を待って考えたい。

次に滑石製石鍋について考えてみたい。古代末から中世の前半（12世紀～14世紀）にかけて，長崎県西被杵半島で生産された滑石製石鍋は，日本全国広い範囲に伝播していった。南へも多く伝わったようで，その広がりは沖縄県の先島諸島まで達している。鹿児島県でも西海岸沿いに多くの遺跡で出土が知られている。筆者が昭和58年にまとめた時点では，26か所の出土地が分かっていたが，その後も資料は次々に増えている。当時，南西諸島（鹿児島県内）でも8か所の遺跡で出土が知られていたが，今日では18か所で出土が知られている。この数は県内他地域に比して決して少なくない。今回の調査でも3か所の遺跡で出土が知られた。喜界島では，合わせて9遺跡で石鍋の出土が報告されている。当時の石鍋の流布は商人によって広がったらしいことが，その出土量から伺えるが，それを購入するだけの経済力が喜界島には既に備わっていたらしいことが予想できる。

最後に類須恵器とも呼ばれている在地の須恵器について考えてみたい。昭和56年に徳之島の伊仙町カムィヤキで窯跡が発見され，さらにその近くの柳田でも窯跡が発見されて以来，その分布・年代観等についてこれまで数名の研究者によって言及されてきた。今回，完形の壷が発見されたことは，その出土状況，共伴遺物を調べるうえに貴重な資料となるものと思われる。今後の研究に期待したい。

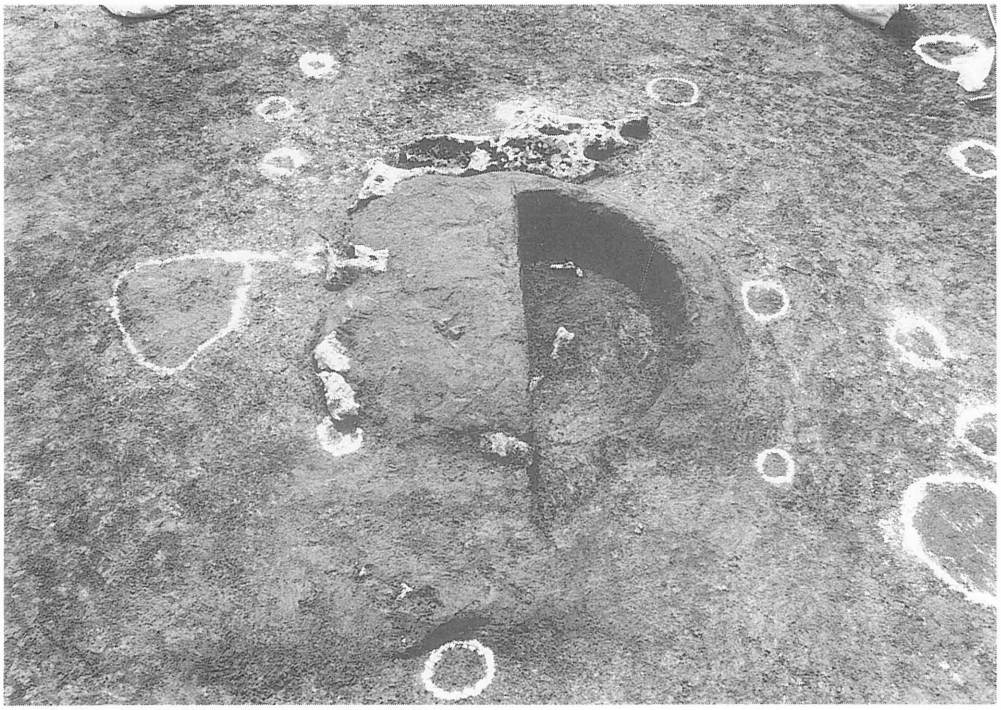


オン畑遺跡1トレンチ遺構検出状況（南から）



同　　上（西から）

オン畑遺跡 1 号炉跡検出状況

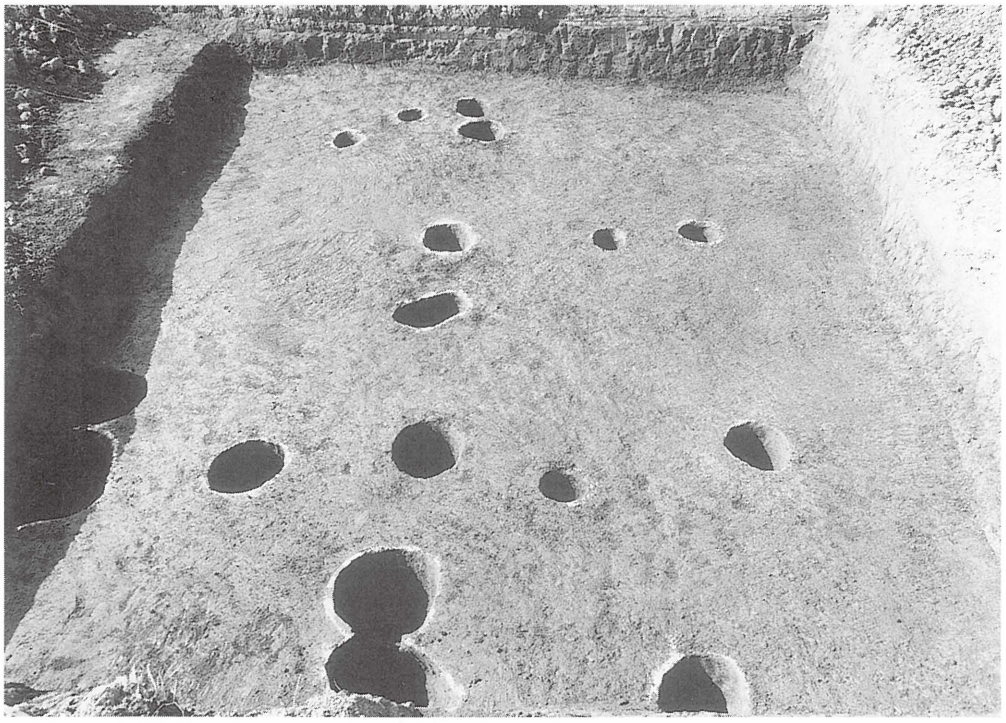


オン畑遺跡 1 号炉跡

オン畑遺跡 2 号炉跡検出状況

オン畑遺跡類須恵器出土状況（1．2）

オン畑遺跡 6 トレンチ柱穴検出状況



巻畑Ｂ遺跡 1 トレンチ柱穴検出状況

巻畑Ｂ遺跡５トレンチ柱穴検出状況（北から）

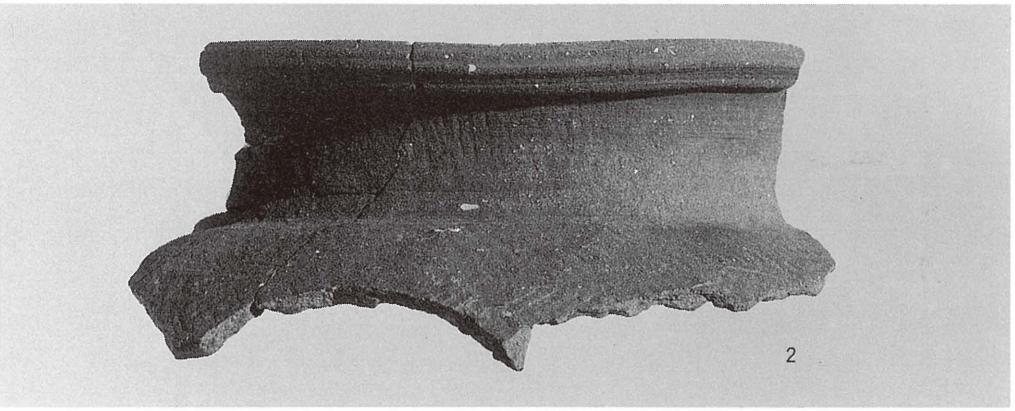
同　　上（西から）

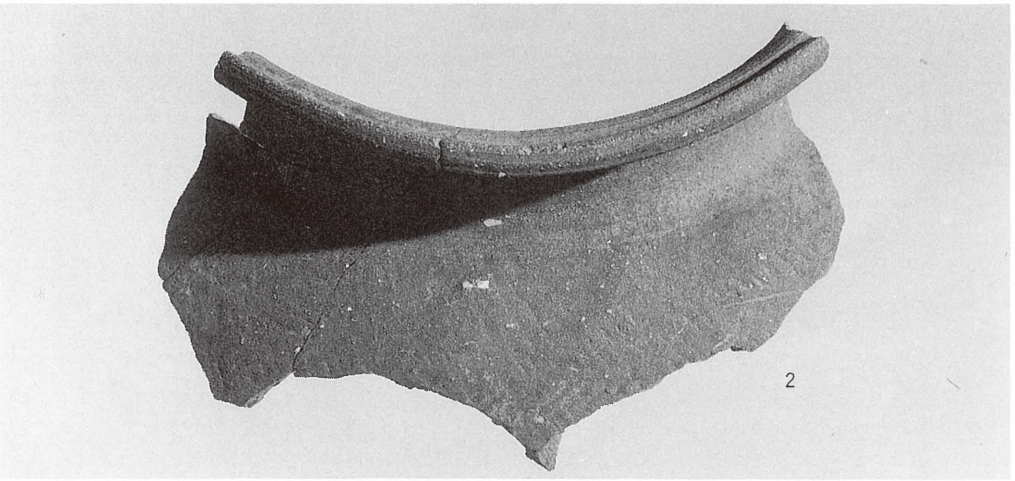
池ノ底散布地遠景

発掘調査参加者

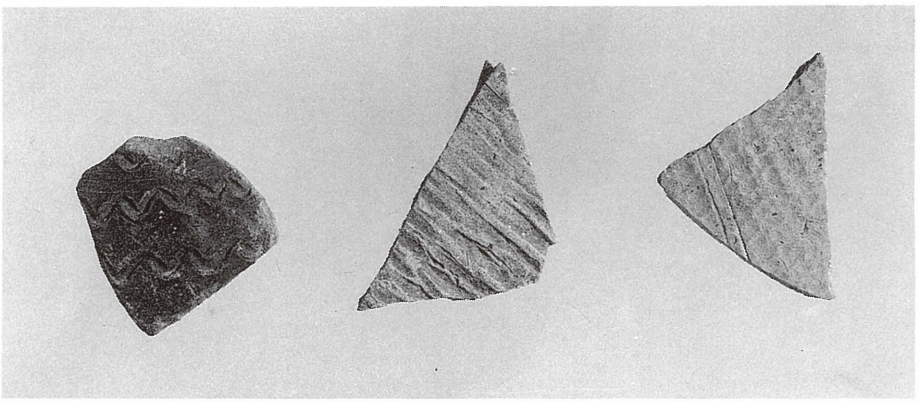
発掘風景

1

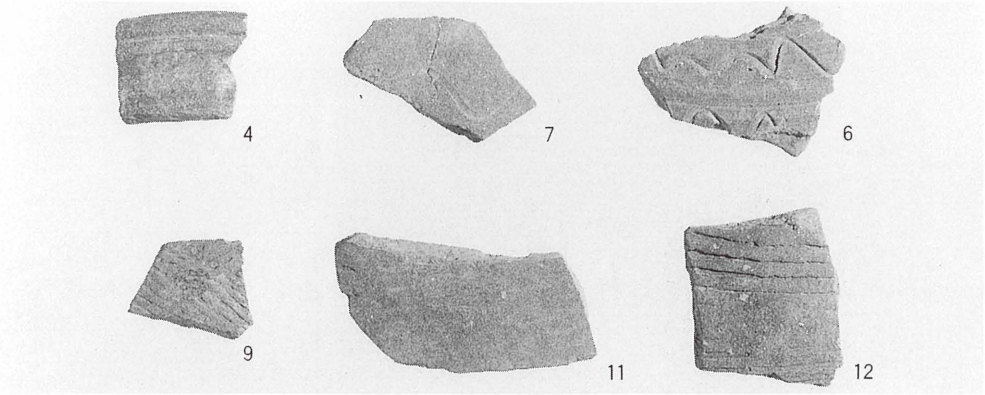

2

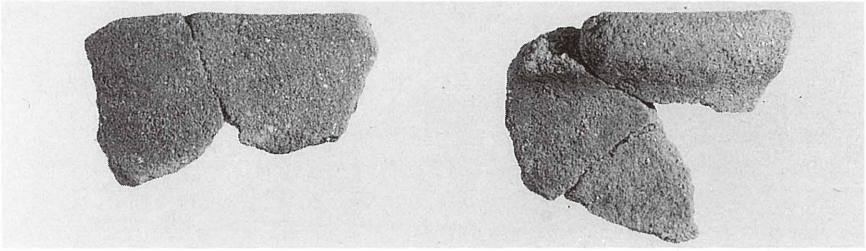

2

25

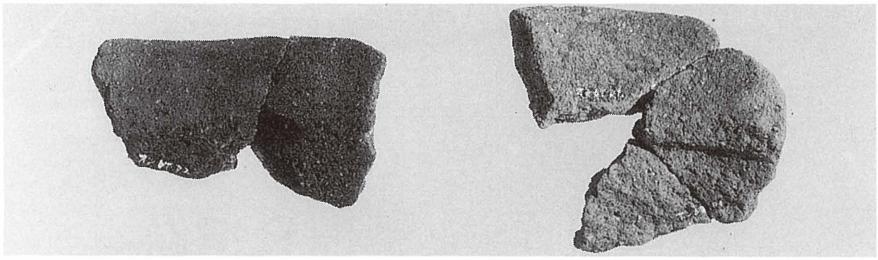


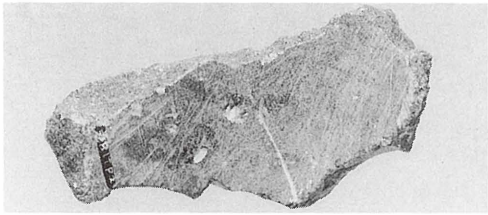
23 29 30



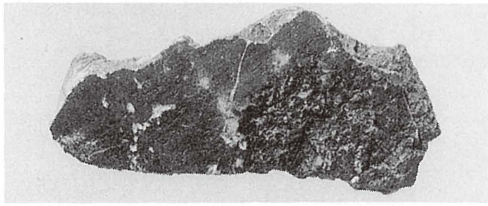


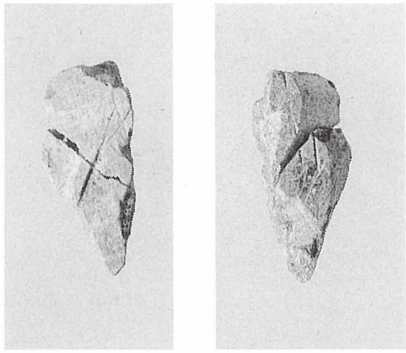
19 18





24





31

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)

オン畑遺跡・巻畑B遺跡
巻畑C遺跡・池ノ底散布地

発行日　1993年3月20日

発　行　喜界町教育委員会
〒891－82
鹿児島県大島郡喜界町湾61番地
☎０９９７－６５－１１１１

印　刷　有限会社　ト　ラ　イ　社
〒890
鹿児島市南林寺町１２－６
☎０９９２－２６－０８１５